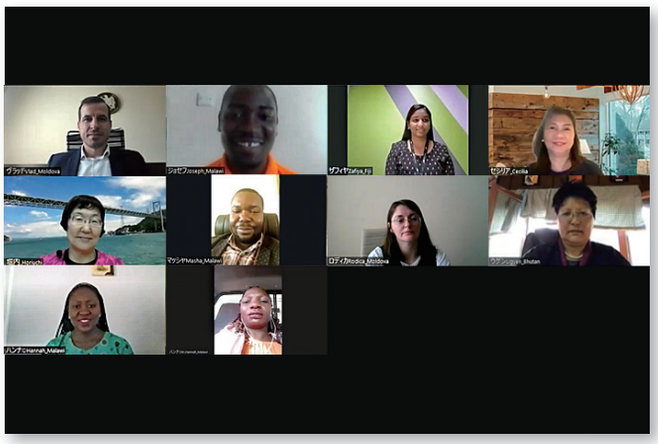
公益財団法人 アジア女性交流・研究フォーラム アニュアルレポート

ANNUAL REPORT

KFAW

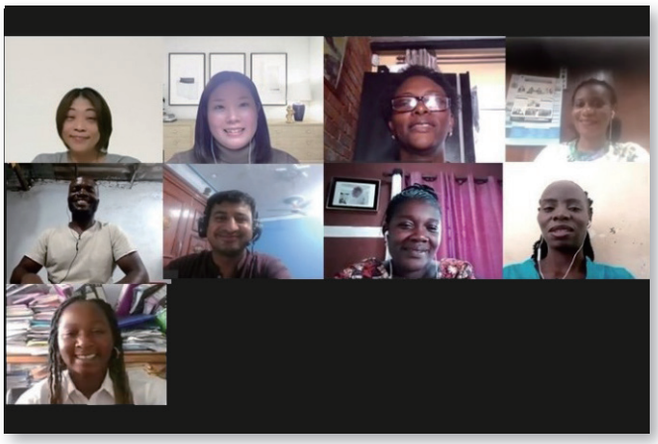
令和4(2022)年度 年報

（公財）アジア女性交流・研究フォーラムの主な事業



第 33 回アジア女性会議―北九州
「みんなでフェミニストとして世界を旅しよう！
～ SDGs チャレンジと共に～」

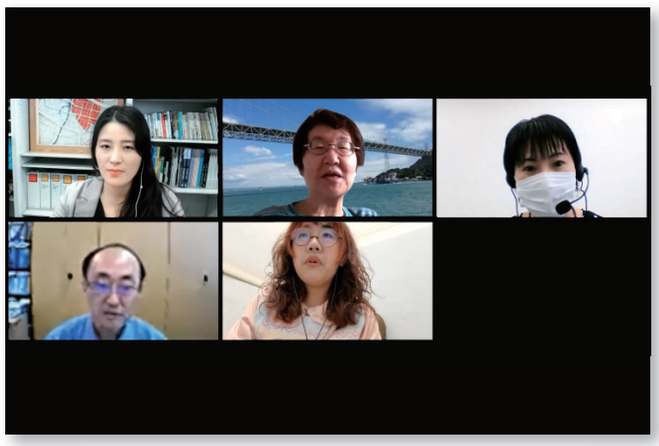
国際理解セミナー
「ジェンダー平等の現状と国連女子差別撤廃委員会」



行政官のためのジェンダー主流化政策（B）

『変容するアジアの家族』出版記念セミナー
アジアジェンダー研究者ネットワーク共同研究

第 35 回 KFAW 研究報告会
（会場視聴の様子）



第 66 回 国連女性の地位委員会（CSW66）報告会
「気候変動、環境及び災害リスク削減の政策・プログラムにおける
ジェンダー平等とすべての女性・少女のエンパワーメントの達成」

北九州市立男女共同参画センター・ムーブの主な事業

おとこのライフセミナー：藤原和博さん講演会
「コロナを契機に！たった一度の人生を変える勉強をしよう」

男女共同参画啓発講座：浜田敬子さん講演会
日本の政治は「女性のいない民主主義」
～ジャーナリストが読み解くジェンダーギャップ～

女性のエンパワーメント事業
働く女性に贈る！お役立ちワンポイントセミナー

男性にとっての男女共同参画　時短料理男子講座

若者のキャリア形成への支援
キャリア形成プログラム

目　次

公益財団法人アジア女性交流・研究フォーラムの概要
設立趣意書 …… 2
目的 …… 3
事業内容 …… 3
組織 …… 3
職員数 …… 4
役員等 …… 4
運営 …… 5

令和４（2022）年度実施事業
公益目的事業Ⅰ
調査・研究事業 …… 8
交流・研修事業 …… 11
情報収集・発信事業 …… 14
国際研修事業 …… 15
その他 …… 16
公益目的事業Ⅱ
指定管理事業 …… 18
男女共同参画センター管理運営業務 …… 18
自主事業 …… 27
男女共同参画センター自主事業 …… 27
指定管理施設利用状況 …… 28
収益事業等
その他事業Ⅰ：北九州市大手町ビル維持管理事業 …… 30
その他事業Ⅱ：北九州市立男女共同参画センター等の公益目的以外の貸与事業 …… 30
法人事業 …… 32

財務諸表
貸借対照表内訳表 …… 34
正味財産増減計算書内訳表 …… 35
財務諸表に対する注記 …… 36

資料
公益財団法人アジア女性交流・研究フォーラムの歩み …… 40
刊行物一覧 …… 49
海外とのネットワーク …… 55
施設案内 …… 56

公益財団法人アジア女性交流・研究フォーラムの概要

設立趣意書

今日、国際社会においては、地球的規模で、世界の平和と人類の福祉向上の実現に向けての努力が重ねられています。

女性の地位向上の面においても、一国の全面的な発展及び世界の福祉・平和のためには、女性が男性と共に、社会のあらゆる分野に参画することが必要であることが認識され、1975 年の「国際婦人年」を契機に、続く「国連婦人の十年」において「平等・開発・平和」を目標として世界的な規模での活動が活発に展開されてきました。しかし、実質的な女性の地位向上には、まだ多くの問題が残されており、国連婦人の十年以後もその精神を引き継ぎ、ナイロビ世界会議で採択された西暦 2000 年に向けての「婦人の地位向上のためのナイロビ将来戦略」に沿って、世界各地で目標達成のための努力が続けられています。

女性問題は、女性が単に女性であるということから生じるさまざまな不利益、不平等の問題であり、基本的人権、人間の尊厳にかかわる問題であります。その意味において、女性問題は女性だけの問題ではなく、男性を含む社会全体の、世界的に共通な問題であるといえます。このような観点から、現在、女性の視点が反映されることの少なかった従来の社会のありかたの再構築の必要性が認識され、男女共同参画による社会づくりが強く求められています。特に、開発途上国においては、国の開発の推進と開発における女性の参画が重要な問題となっています。

このような女性問題に対する認識と国際婦人年以来のさまざまな活動をふまえ、北九州市のふるさと創生事業を契機にアジア女性交流・研究フォーラムは事業を開始しました。以来、女性の地位向上とアジア地域の連帯・発展の核として機能することを目指して、日本及び他のアジア地域の女性問題に関する調査・研究及び情報の収集・提供、あるいは開発途上国の人材養成のための研修ならびに相互理解を促進するための国際交流などの活動を行ってきました。

国際社会が相互依存の関係を強め、日本の国際的役割がいっそう重要になるなかで、わたしたちは、アジア女性交流・研究フォーラムの事業の使命と意義を更に深く認識し、安定的な財政基盤の確保と、これまでの活動の一層の充実を図り、日本における女性問題の所在をより明確にするとともに、アジアの女性の地位向上に更に寄与することを念願し、ひいては、国際婦人年以降の目標である「平等・開発・平和」を達成するため、財団法人アジア女性交流・研究フォーラムを設立いたします。（1993 年起草）

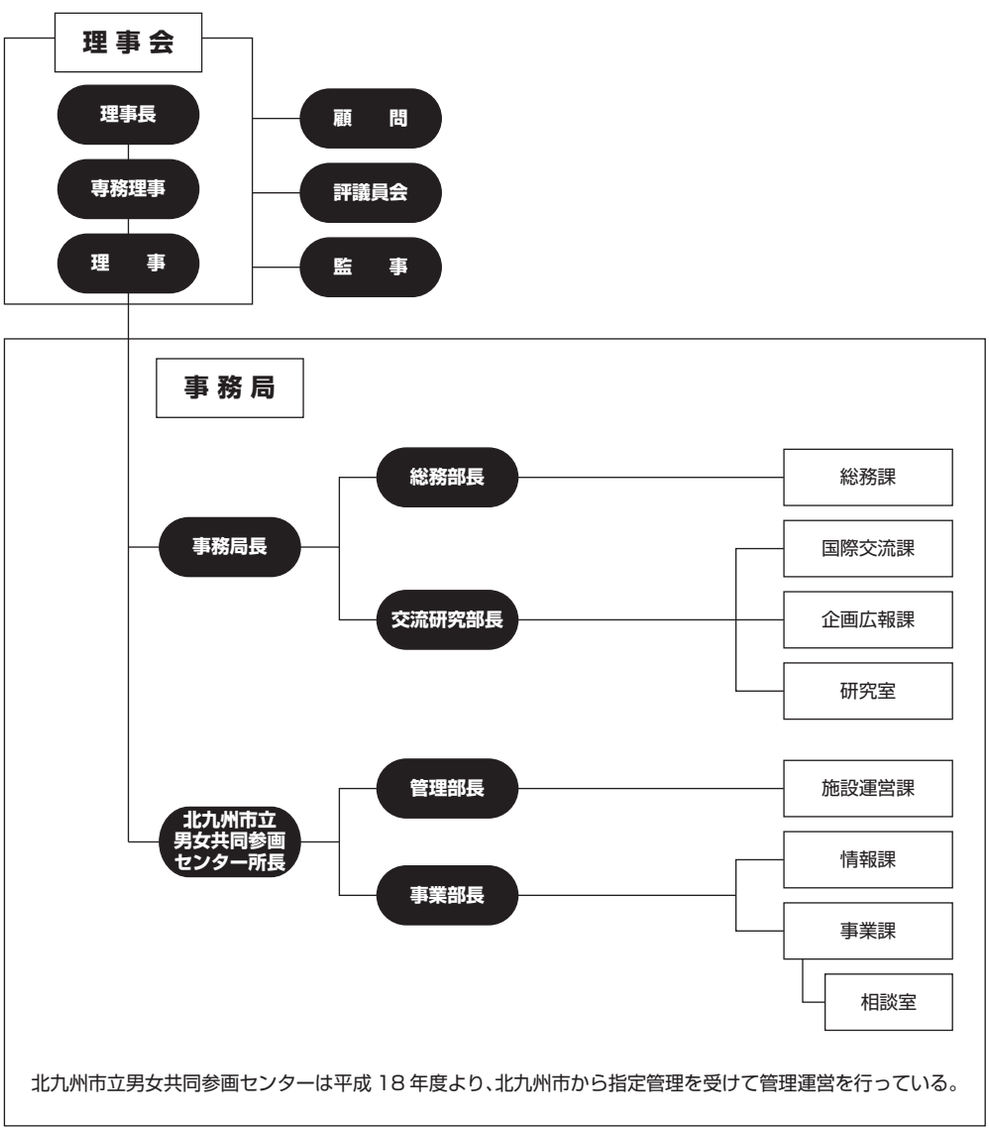
目　的

日本及び他のアジア諸国のジェンダー（社会的性別）問題に関する調査研究及び国際交流等を行うとともに、男女共同参画社会の形成の推進に関する取り組みを支援することにより、女性の地位向上及び男女共同参画社会の形成の推進を図り、もって、日本及び他のアジア地域相互の発展に寄与することを目的とする。

事業内容

⑴　ジェンダーや男女共同参画に関する課題についての調査・研究
⑵　ジェンダーや男女共同参画に関する課題についての国際交流・研修
⑶　ジェンダーや男女共同参画に関する課題についての情報収集・発信
⑷　北九州市立男女共同参画センターの管理・運営
⑸　その他、本財団の目的を達成するために必要な事業

組　織



職員数

令和 5 年 3 月 31 日現在

区分		所長	事務局長	部長級	課長級	職員	計
市派遣職員				2	3		5
	うちムーブ職員※1			2（兼務）	2		4
嘱託職員					3	20	23
	うちムーブ職員※1				1	15	16
その他（役員との兼務）		1※2	1※3				1

※１　北九州市立男女共同参画センター・ムーブの管理運営に従事する職員
※２　所長は専務理事が兼務する。
※３　事務局長は専務理事が兼務する。

役員等（五十音順）

令和 5 年 3 月 31 日現在

理事長

堀内　光子　　公益財団法人アジア女性交流・研究フォーラム理事長

専務理事

小石　佐織

理事

秋月　弘子　　亜細亜大学国際関係学部教授
小川　健一郎　　公益財団法人大阪 YMCA 代表理事
北野　久美　　北九州市保育士会会長
田村　慶子　　北九州市立大学教授
湯淺　墾道　　明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科教授、北九州市男女共同参画審議会副会長
渡邊　典子　　弁護士

監事

藤野　啓介　　株式会社福岡銀行常務執行役員北九州本部長
山本　浩二　　北九州市会計室長

顧問

武内　和久　　北九州市長
服部　誠太郎　　福岡県知事

評議員

大島　まな	九州女子大学教授
窪田　由紀	九州産業大学教授
戴　　二彪	公益財団法人アジア成長研究所副所長
冨安　兆子	高齢社会をよくする北九州女性の会代表
沼田　文子	北九州市女性団体連絡会議会長
羽田野　隆士	北九州商工会議所専務理事
浜　　和枝	北九州市婦人会連絡協議会会長
松尾　太加志	北九州市立大学学長
村上　順滋	北九州市私立幼稚園連盟会長

運　営

1　理事会

⑴　第１回理事会

開 催 日　　令和４年６月２日（木）14：00 ～ 15：45

場　　所　　北九州市立男女共同参画センター・ムーブ　５階小セミナールーム

出席者数　　７名

議　　案　　・令和３年度事業報告及び決算について

・令和４年度定時評議員会の開催の決定について

議事結果　　全議案可決

⑵　第２回理事会（みなし決議）

決議があったとみなされた日　　令和４年６月27日（月）

議　　案　　・専務理事（業務執行理事）１名の選定

議事結果　　議案可決

⑶　第３回理事会（みなし決議）

決議があったとみなされた日　　令和４年９月28日（水）

議　　案　　・公益財団法人アジア女性交流・研究フォーラム就業規則の一部改正について

・公益財団法人アジア女性交流・研究フォーラム職員の育児休業等に関する規程の一部改正について

議事結果　　全議案可決

⑷　第４回理事会

開 催 日　　令和５年３月２日（木）10：30 ～ 12：00

場　　所　　北九州市立男女共同参画センター・ムーブ　５階小セミナールーム

出席者数　　５名

議　　案　　・公益財団法人アジア女性交流・研究フォーラム就業規則の一部改正について

・公益財団法人アジア女性交流・研究フォーラム職員給与規程の一部改正について

・令和５年度事業計画及び収支予算について

・顧問の選任について

議事結果　　全議案可決

２　評議員会

⑴　定時評議員会

開 催 日　　令和４年６月21日（火）14：00 ～ 15：05

場　　所　　北九州市立男女共同参画センター・ムーブ　５階大セミナールーム

出席者数　　７名

議　　案　　・令和３年度決算について

・理事の選任について

議事結果　　全議案可決

令和４（2022）年度実施事業
公益目的事業Ⅰ

日本及びアジア地域のジェンダー問題に関する調査研究、国際協力・交流等を通じて女性の地位向上を図る事業

【概況】

アジア女性交流・研究フォーラム（KFAW）は、平成2年10月に設立、平成5年10月に労働省（現厚生労働省）の認可を受けて財団法人となり、平成25年4月1日に内閣府の認定を受けて公益財団法人に移行した。設立以降、女性の地位向上及びジェンダー平等社会の形成の推進を図るため、さまざまな活動を展開してきた。

令和4年度も、新型コロナウイルス感染拡大防止への対応として、積極的にオンラインを活用する等により重要事業の継続的実施を図った。

調査・研究事業として、2組の客員研究員研究を選考するとともに、研究報告会をハイブリッド方式（会場、オンラインの併用）で実施した。アジアジェンダー研究者ネットワーク活動として、共同研究図書『変容するアジアの家族』の出版記念セミナーを開催した。

交流・研修事業としては、国際研修として、「行政官のためのジェンダー主流化政策」研修をオンラインで2回実施し、これまでの研修で築いたネットワークを活かし「アジア女性会議―北九州」を開催した。

第67回国連女性の地位委員会（CSW67）は、会議へのオンライン参加とともに、他のNGOが主催したパラレルイベントにKFAW職員が登壇（オンライン）し、KFAWで毎年実施しているジェンダー主流化研修の近年のオンライン研修の取り組みについて発表（英語）を行った。

1　調査・研究事業

KFAW客員研究員による調査研究を行うとともに、研究報告会の開催や研究誌の刊行によって研究成果を公開し、研究者、市民等と共有した。また、KFAWアジアジェンダー研究者ネットワーク活動を活発化させるとともに、キャリア形成のためのプログラム開発などを行った。

(1)　客員研究員研究

KFAWの調査・研究事業については、客員研究員への委託により時宜に適したテーマによる調査研究を実施した。令和4年度は、2組の客員研究員研究を選考した（調査期間：令和4年度～令和5年度）。

ア　R4／R5年度　KFAW客員研究員と研究テーマ

(ア)　『Women's Entrepreneurship Report』から見る世界と日本の女性起業家の変化
山陽学園大学地域マネジメント学部講師　建井順子

(イ)　日本のエコフェミニストの系譜学
立教大学21世紀社会デザイン研究科兼任講師 ESD研究所研究員　森田系太郎

イ　研究誌の刊行

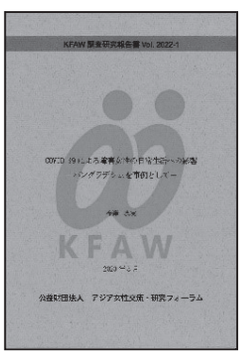
KFAW 客員研究員等の論文を収録した研究誌『アジア女性研究』及び『KFAW 調査研究報告書』を刊行した。

・『アジア女性研究』第 32 号　400 部

・『KFAW 調査研究報告書』　100 部

2022-1 COVID-19 による障害女性の日常生活への影響―バングラデシュを事例として―

『アジア女性研究』第 32 号



KFAW 調査研究報告書 2022-1

ウ　研究報告会の開催

研究報告会を開催して、研究成果を市民、研究者に発信した。

(ア)　第 35 回 KFAW 研究報告会

①　日時　　令和 5 年 2 月 18 日（土）14:00 ～ 15:15

②　場所　　北九州市立男女共同参画センター・ムーブ（オンライン配信及び会場視聴）

③　報告内容、報告者

「COVID-19 による障害女性の日常生活への影響―バングラデシュを事例として―」

上智大学アジア文化研究所客員所員　金澤真美

④　参加者　70 名（オンライン 61 名、会場視聴 9 名）

⑵　KFAW アジアジェンダー研究者ネットワーク活動

ア　アジアジェンダー研究者によるセミナーの開催

ジェンダーに関するさまざまな分野の研究者や実務者が、アジア地域を対象とする研究の成果について、市民を含む多くの人々と共有するため、セミナーを開催するとともに KFAW アジアジェンダー研究者ネットワーク活動の充実を図った。

㈠　令和 4 年度第 1 回 KFAW アジアジェンダー研究者ネットワークセミナー

①　テーマ　「『変容するアジアの家族』出版記念セミナー」

②　日時　令和 4 年 5 月 15 日（日）14:00 ～ 17:00

③　場所　北九州市立男女共同参画センター・ムーブ（会場参加及びオンライン配信）

④　講師　北九州市立大学教授　田村慶子
福岡県立大学教授　佐野麻由子
福岡県立大学講師　坂無　淳
熊本大学教授　古田弘子

⑤　参加者　51 名（会場 8 名、オンライン 43 名）

⑥　内容　KFAW アジアジェンダー研究者ネットワーク有志で、「変容するアジアの家族」をテーマに共同研究を重ね、令和 4 年 3 月に共同執筆による研究図書を出版した。その出版記念セミナーを開催し、著者であるそれぞれの研究者からアジア諸国の家族の変容についてご講演いただいた。

イ　キャリア形成のためのプログラム開発

大学生の卒業後の働き方や自己実現のために、男女共同参画や女性活躍の視点も踏まえ開発した「大学生のためのキャリア形成プログラム」を改訂し、市内 4 大学で 9 回、対面やオンデマンド方式で講義を行った。

⑶　ジェンダー平等の実現に向けた調査・研究事業（市からの委託事業）

市からの委託を受け、ジェンダー平等を実現するための重大な障害となる「性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）」に関する調査を市民 3,000 人に実施し、調査結果を分析した報告書を作成し、市へ提出した。

2　交流・研修事業

「第 33 回アジア女性会議―北九州」や国際理解セミナー「ジェンダー平等の現状と国連女子差別撤廃委員会」などを開催した。

⑴　「アジア女性会議－北九州」等の国際セミナーの開催

ア　アジア女性会議―北九州

オンラインで 7 月 7 日にプレイベントとして「モルドバに避難したウクライナの女性と子どもたち」を開催し、9 月 30 日に「みんなでフェミニストとして世界を旅しよう！～ SDGs チャレンジと共に～」と題し、本会議を開催した。プレイベントは、KFAW のネットワークを活用し、ウクライナ隣国モルドバの最新の支援状況をレポートし、本会議では 2023 年度の SDGs 中間年にあわせ、ブータン、マラウイ、モルドバ、フィジーから 4 か国のゴール 5 への課題や成果を発表した。

㈠　『第 33 回アジア女性会議―北九州』プレイベントの開催

「モルドバに避難したウクライナの女性と子どもたち」

①　日時　　令和 4 年 7 月 7 日（木）15:30 ～ 17:00

②　場所　　オンライン配信（Zoom）

（視聴会場　北九州市立男女共同参画センター・ムーブ）

③　参加者　183 名（オンライン）

④　登壇者　杉本　聡

㈱国際協力機構（JICA）ウクライナ・フィールドオフィス 首席駐在員

ヴラディミル・ネグラ

モルドバ内務省 警察総監庁 国際関係・欧州問題局 局長

ロディカ・ザドニプル

モルドバ国会事務局 支援と戦略開発部　上級コンサルタント

㈡　『第 33 回アジア女性会議―北九州』の開催

「みんなでフェミニストとして世界を旅しよう！～ SDGs チャレンジと共に～」

①　日時　　令和 4 年 9 月 30 日（金）14:00 ～ 16:30

②　場所　　オンライン配信（Zoom）

（視聴会場　北九州市立男女共同参画センター・ムーブ）

③　参加者　138 名（オンライン 135 名、会場 3 名）

④　登壇者　セシリア・ファンタスティコ　ジェンダー専門家 / フィリピン

1 か国目：ブータン王国

ウゲン・ツォモ

女性と子ども国家委員会 女性部 チーフプログラムオフィサー

2 か国目：マラウイ共和国

ジョセフ・カレロ・フィリ　ジェンダー開発主任

アリック・カテンガ・ムンサリ　コタコタ県担当ジェンダーオフィサー

ハンナ・キションベ　地区ジェンダー担当官

カツツ・リラニ・ハンナ・カルワ　ジェンダー開発オフィサー

（以上、ジェンダー・子ども・障害者・社会福祉省 ジェンダー問題部所属）

3 か国目：モルドバ共和国

ヴラディミル・ネグラ　内務省 警察総監庁 国際関係・欧州問題局 局長

ロディカ・ザドニプル　国会事務局 支援と戦略開発部 上級コンサルタント

4 か国目：フィジー共和国

シャミム・ザフィヤ　フィジー道路局 コミュニケーション部

コミュニケーションと社会セーフガード担当官

⑤　事後配信　YouTube 配信、一部動画は HP 掲載

⑥　報告書の作成

イ　国際理解促進事業

国連女子差別撤廃委員会委員、亜細亜大学教授 秋月弘子氏を招き、日本におけるジェンダー「不」平等の現状、国連女子差別撤廃委員会（CEDAW）の役割など、10 月にジュネーブで開催された CEDAW 第 83 会期の最新情報も含めて広く市民に知ってもらうためのセミナーを開催した。

また、令和 5 年 3 月に開催された第 67 回国連女性の地位委員会（CSW67）では、会議へのオンライン参加とともに、日本の NGO が主催した NGO フォーラム・パラレルイベントに KFAW 職員が登壇（オンライン）し、KFAW で実施している途上国でのジェンダー主流化研修の取り組みについて発表を行った。

(ア)　第 66 回国連女性の地位委員会（CSW66）報告会

①　報告内容

1）CSW66 について

＜優先テーマ＞

「気候変動、環境および災害リスク削減の政策・プログラムにおけるジェンダー平等とすべての女性・少女のエンパワーメントの達成」

＜レビューテーマ＞

「変化する仕事の世界における女性の経済的エンパワーメント（CSW61 の合意結論）」

2）NGO CSW66 パラレルイベントについて

＜テーマ＞

「Youth talk: action for climate justice, disaster prevention & gender equality」

②　日時　　令和 4 年 6 月 10 日（金）14:00 ～ 15:45

③　場所　　オンライン配信（Zoom）

（視聴会場　北九州市立男女共同参画センター・ムーブ）

④　報告者　（CSW66 の会議概要報告）

堀内光子（KFAW 理事長）

⑤　発表者　（パラレルイベントの発表者報告）

森　友里歌（北九州市立大学大学院国際環境工学研究科博士課程学生）

大村昭子（北九州市危機管理室防災連携担当係長）

加藤尊秋（北九州市立大学国際環境工学部環境生命工学科教授）

対談　　鄧　心怡（台中市政府社会局）

⑥　参加者　　60 名（オンライン 58 名　会場視聴 2 名）

⑦　事後配信　YouTube 配信　令和 4 年 6 月下旬より 1 ヶ月程度

(イ)　国際理解セミナー「ジェンダー平等の現状と国連女子差別撤廃委員会」

①　日時　　令和 4 年 11 月 12 日（土）14:00 ～ 16:00

②　場所　　北九州市立男女共同参画センター・ムーブ
会場参加、オンライン配信（Zoom）

③　講師　　秋月弘子（亜細亜大学教授、国連女子差別撤廃委員会委員）

④　参加者　　60 名（会場 27 名　オンライン 33 名）

(ウ)　国連ウィメン日本協会北九州　講演会「女性・少女の人権を守るために私たちに何ができるのか―ジェンダー平等を達成するために国際法はどう役立つか―」【共催事業】

①　日時　　令和 4 年 12 月 11 日（日）14:00 ～ 15:45

②　場所　　北九州市立男女共同参画センター・ムーブ
会場参加、オンライン配信（Zoom）

③　講師　　二宮正人（北九州市立大学法学部教授・副学長）

④　参加者　　120 名（会場 97 名　オンライン 23 名）

⑤　主催　　国連ウィメン日本協会北九州

⑥　共催　　（公財）アジア女性交流・研究フォーラム

ウ　高校生向け男女共同参画意識の啓発

高校生が将来に向けて自己実現やジェンダー平等を考えるためのセミナーを実施した。

(ア)　高校生キャリア形成セミナー（北九州ひとみらいプレイスとの共同実施）
高校生セミナー「ジェンダーを考える夏 2022」

①　内容　　高校生がジェンダーに関するワークショップを通じて SDG5（ジェンダー平等及び女性・少女のエンパワーメント）について学び、課題を共有し、ポスター作成と発表を行った。

②　日時　　令和 4 年 8 月 21 日（日）14:00 ～ 16:30

③　場所　　北九州市立男女共同参画センター・ムーブ

④　企画運営　北九州市立大学地域創生学群 ESD プロモート実習生

⑤　参加者　　高校生 7 名（公募）

(イ)　ジェンダー問題探究学習成果発表会「未来をひらくあなたに」（北九州市立男女共同参画センター・ムーブ主催、フォーラム共催）

①　内容　　市内 4 校の高校生有志 28 名が約 4 ヶ月にわたり自ら課題を見つけ、その課題を解決する過程で様々な気づきや知識を得ていく探究学習を行い、その成果発表会を開催した。

②　日時　　令和 4 年 11 月 12 日（土）13:00 ～ 15:40

③　場所　　北九州市立大学北方キャンパス

④　企画運営協力　北九州市立大学地域共生教育センター

⑤　参加者　　83 名（うち高校生 28 名）

⑵　海外拠点ネットワークの形成

SDGs 達成への取り組みを通じて、目標 5 を主とした海外拠点ネットワーク形成を目指し情報共有を図るため、フォーラムの活動内容をホームページで紹介した。

⑶　海外派遣

令和 5 年 3 月にニューヨークで開催された第 67 回国連女性の地位委員会（CSW67）への参加登録の機会を当財団の関係者に提供した。なお、本会合は、対面とオンラインのハイブリット形式で行われた。

3　情報収集・発信事業

ウェブニューズレター『Asian Breeze』の配信、ホームページ、SNS などを活用しながら、アジア地域の女性に関する情報収集・発信やフォーラムの活動についての情報発信を行った。

⑴　ウェブニューズレター『Asian Breeze』等の配信・発行

主にアジア・太平洋諸国の女性に関する情報やフォーラムの活動を広く国内外に情報発信し、ジェンダー問題に対する理解の浸透を図っていくため、ウェブニューズレター『Asian Breeze』（日本語・英語版）を配信した。

また、KFAW の年間事業報告書『令和 3（2021）年度 年報』を発行した。

ア　ウェブニューズレター『Asian Breeze』（日本語版、英語版）の配信

㈠　第 92 号　令和 4 年 8 月

㈡　第 93 号　令和 5 年 1 月

㈢　第 94 号　令和 5 年 2 月

㈣　第 95 号　令和 5 年 3 月

イ　年間事業報告書の発行

KFAW の年間事業報告書『令和 3（2021）年度 年報』を発行した。

㈠　発行部数　　250 部

㈡　発行時期　　令和 4 年 8 月

ウ　ホームページ、Facebook、Twitter、Instagram アクセス等件数　922,678 件

（内訳）	ホームページ（日 / 英）	194,902 件
	Facebook（日 / 英）	123,946 件
	Twitter（日 / 英）	576,003 件
	Instagram（日 / 英）	27,827 件

⑵　海外通信員事業

アジア・太平洋諸国を中心とした海外のジェンダー平等に関わる最新の状況について情報収集を行い、「KFAW ランチタイムトーク」の実施やホームページ、SNS などを通じて情報発信を行った。

ア　KFAW ランチタイムトーク

㈠　第 1 回　KFAW ランチタイムトーク（ラオス）

①　日時　　令和 5 年 1 月 25 日（水）12:10 ～ 12:40

②　場所　　オンライン配信

③　出演者　　森重千里（JICA 海外協力隊経験者　ラオス赴任）

④　参加者　　62 名

㈡　第 2 回　KFAW ランチタイムトーク（タイ）

①　日時　　令和 5 年 2 月 20 日（月）12:10 ～ 12:40

②　場所　　オンライン配信

③　出演者　　永崎公志朗（JICA 海外協力隊経験者　タイ赴任）

④　参加者　　51 名

㈢　第 3 回　KFAW ランチタイムトーク（トンガ）

①　日時　　令和 5 年 3 月 15 日（水）12:10 ～ 12:40

②　場所　　オンライン配信

③　出演者　　内野里香（JICA 海外協力隊経験者　トンガ赴任）

④　参加者　　35 名

4　国際研修事業

⑴　JICA 研修　行政官のためのジェンダー主流化政策 2022

開発途上国におけるジェンダー主流化の政策立案や推進が可能な行政官を育成する国際研修を独立行政法人国際協力機構九州センター（JICA 九州）から 2 回受託し、オンラインで「行政官のためのジェンダー主流化政策」研修を実施した。受託予定だった、ブータン国内の女性や子どもの保護とケア担当保護官向けの「ブータン・女性と子どもの保護とケア」研修は、相手国の事情により延期となった。

ア　研修概要

＜行政官のためのジェンダー主流化政策 2022（A）＞

㈠　期間　　令和 4 年 6 月 7 日（火）～ 7 月 4 日（月）

㈡　場所　　オンライン

㈢　研修員　5 カ国 7 名（パキスタン、スリランカ、ザンビア、ブータン、ケニア）

＜行政官のためのジェンダー主流化政策 2022（B）＞

㈠　期間　　令和 4 年 10 月 25 日（火）～ 11 月 21 日（月）

㈡　場所　　オンライン

㈢　研修員　3 カ国 8 名（ガーナ、マラウイ、パキスタン）

イ　市民交流会の開催

市民である北九州市立大学生と交流会を開催し、学生による発表や研修員との意見交換を 2 回実施した。

＜行政官のためのジェンダー主流化政策 2022（A）＞

㈠　日時　　令和 4 年 7 月 1 日（金）14:30 ～ 16:30

㈡　場所　　オンライン

㈢　参加者　42 名

＜行政官のためのジェンダー主流化政策 2022（B）＞

㈠　日時　　令和 4 年 11 月 16 日（水）17:00 ～ 19:00

㈡　場所　　オンライン

㈢　参加者　30 名

5　その他

大学生・高校生による体験学習等の受入

ア　青山学院大学「地域実習」

時　期：令和 4 年 7 月 5 日（火）～ 9 日（土）　5 日間

参加者：青山学院大学コミュニティ人間科学部 3 年生　7 名

指導者：青山学院大学地域実習担当教官　大島まな（九州女子大学人間科学部教授）

内　容：フォーラム・ムーブの事業と実習

イ　福岡県立小倉高等学校（オンライン校外学習）

時　期：令和 4 年 9 月 22 日（木）9:30 ～ 12:00

参加者：小倉高等学校第 1 学年　生徒 27 名

内　容：SDGs とジェンダー平等、フォーラム、ムーブの取組み

ウ　青山学院大学「女性活動支援プログラム」履修学生の研修

時　期：令和 5 年 1 月 16 日（月）10:00 ～ 12:00

参加者：青山学院大学コミュニティ人間科学部第 2 学年　学生 7 名

指導者：青山学院大学コミュニティ人間科学部准教授　本庄陽子

内　容：フォーラム・ムーブの事業と実習

エ　京都市立西京高等学校「地域実習」

時　期：令和 5 年 3 月 6 日（月）13：00 ～ 15：00

参加者：京都市立西京高等学校第 1 学年　生徒 39 名

内　容：ジェンダー平等とフォーラム・ムーブの取組みについて

公益目的事業Ⅱ

男女共同参画に関する事業を通じて男女共同参画社会の形成を推進する事業

【概況】

アジア女性交流・研究フォーラムは、平成 18 年度から北九州市立男女共同参画センター・ムーブの指定管理者として培った経験や地域との関係を踏まえ、令和 4 年度においても男女共同参画社会の推進を担う拠点施設としての各種事業を実施した。

事業実施にあたっては、「第 4 次北九州市男女共同参画基本計画」を踏まえながら、国連が定めた地球規模の行動計画である持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けて、

① ジェンダー主流化
② 就業に関する女性のエンパワーメント（能力構築）
③ 固定的な男女の役割分担意識の解消
④ 若い世代の男女共同参画意識の向上

等を重点に、ジェンダー問題の解決に向けた「市民をはじめ不特定多数の利益の増進に寄与する」公益目的事業を実施した。

1 指定管理事業

(1) 男女共同参画センター管理運営業務

男女共同参画社会の形成に向けて各種男女共同参画事業等を実施するとともに、相談事業、情報事業、施設管理業務を行った。

また、KFAW で開発したキャリア形成プログラムを、KFAW の成果を活かして、平成 28 年度からムーブで実施している。

ア 男女共同参画事業（9 事業、参加延人数 1,839 名）

(ア) 男女共同参画講座（4 事業、参加延人数 1,418 名）

男女共同参画に関する講座、講演会、シンポジウムを開催し、ジェンダーをめぐる諸問題について啓発を行い、取り組みを促進した。

① 男女共同参画啓発講座

(a) 日本の政治は「女性のいない民主主義」
～ジャーナリストが読み解くジェンダーギャップ～
講師：浜田敬子（元 AERA 編集長／ジャーナリスト）

(b) ムーブ映画祭
映画『妻への家路』
上映会＆樋口智巳さん（小倉昭和館 館主）と凪恵美さん（松永文庫 学芸員）によるトークイベント

(c) 出前講座（門司生涯学習センター大里分館）
「男女共同参画の実現を目指して～幸せを呼ぶには競争原理から協同原理へ～」
講師：中島俊介（西南女学院大学 教授・北九州市立大学 名誉教授）

(d) 出前講座（八幡東生涯学習センター尾倉分館）
「伝わる話し方でプラスに変わるコミュニケーション
～声と言葉を磨いてあなたらしさが輝く未来を～」
講師：藤重知子（合同会社ふじこカンパニー代表、声と話し方コンサルタント）

② おとこのライフセミナー
「コロナを転機に！たった一度の人生を変える勉強をしよう」
講師：藤原和博（「朝礼だけの学校」校長、元リクルート社 フェロー）

③ 高校生向け男女共同参画意識の啓発
「ジェンダーを考える夏 2022」（KFAW 共催事業・再掲）
企画・運営　北九州市立大学地域創生学群 ESD プロモート実習生

④ 語学講座（英会話）

(イ) 生活技術講座（5 事業、参加延人数 421 名）
男女の性別役割分担意識にとらわれずに、生活面でのあらゆる分野で学習、研究することにより、その技術の習得を図った。

① 男性向け講座（エプロン男子、父と子の食育講座、介護男子）、おとこの魅力アップシリーズ（中国茶男子、育児男子、靴磨き男子、身だしなみ男子、時短料理男子、出前講座「メンズご飯！」、出前講座「男のたしなみ～ハーブティ編～」ほか）

② 親子木工教室

イ　女性のエンパワーメント事業（11 事業、参加延人数 3,362 名）
女性の継続的な就業やキャリアアップのための支援を行うとともに、企業、地域等様々な分野での意思決定過程への女性の参画を進めるため、指導的な地位へ成長していく層の育成支援を行った。

(ア) 働く女性のためのフォローアップ・ネットワーク形成

① 働く女性のためのフォローアップセミナー
「私らしく働く時間管理術」
講師：内田ひとみ（株式会社 HUGRES 代表、キャリアコンサルタント）

② ムーブカフェ
実施回数：2 回
講師：園田理恵（九州電力株式会社　福岡支店　福間営業所長）【オンライン開催】
土谷和子（株式会社ゼンリン　総務人事部部長）

(イ) 働く女性に贈る！お役立ちワンポイントセミナー

(ウ) キャリア形成プログラム（再掲）

① 九州国際大学

実施回数：5 回

講師：大島まな（九州女子大学・九州女子短期大学地域教育実践研究センター 所長）

仙波亮一（京都橘大学経営学部 准教授）

山脇直祐（日本経済大学経済学部経済学科 講師）

湯淺墾道（明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科 教授）

② 九州女子大学

実施回数：1 回

講師：松本幸一（九州国際大学法学部 教授）

③ 九州共立大学

実施回数：2 回【オンデマンドによる講義】

講師：松本幸一（九州国際大学法学部 教授）

山脇直祐（日本経済大学経済学部経済学科 講師）

④ 西南女学院大学

実施回数：1 回

講師：大島まな（九州女子大学・九州女子短期大学地域教育実践研究センター 所長）

ロールモデル　土谷和子（株式会社ゼンリン総務人事部 部長）

(エ) 様々な分野での女性の参画推進講座

「大切な人を守るため学び備えよう！～多様な視点から考える防災～」

講師：入門真生（NPO 好きっちゃ北九州理事長、防災 Lab. 北九州）

古川裕子（若松区東 28 区自治会長、花房地区まちづくり協議会会長、防災士）

近藤恵美（産業医科大学病院総合周産期母子医療センター 助教（産科医長））

(オ) 資格取得講座（介護事務講座、医療事務講座など）

(カ) パソコン講座　ほか

ウ　生涯を通じた女性の健康支援事業（4 事業、参加延人数 5,728 名）

女性の多様な活動を支えるために、心と身体の健康を家庭や職場など日常生活の中で、維持増進できるように、技術と知識の習得の機会を提供する「リプロダクティブ・ヘルス／ライツ」に関する講座等を開催した。

(ア) リプロダクティブ・ヘルス／ライツ講座

「映画『17 歳の瞳に映る世界』から考える～子どものリアルに寄り添う性教育って？～」

講師：松本麻子

（北九州市障害者基幹相談支援センター小児慢性特定疾病支援室長／相談担当課長）

(イ) 健康講座

① 心も身体もリフレッシュ！シェイプアップヨガ

② 冷えにさよなら！リラックスヨガ

③ ニュースポーツ健康教室

④ 楽しく踊ろう健康ダンス教室

(ウ) いまどきママのリフレッシュ講座
(エ) フィットネスルームの個人利用

エ　市民活動支援・連携事業（4 事業、参加延人数 513 名）

さまざまな活動を行っている団体やグループの情報交換、交流を促進し、ネットワーク化を図ることによって、男女共同参画センターを利用する個人、団体、グループが相互に新たな発見をし、男女共同参画社会の形成を目指すための自主的・創造的な活動ができるよう支援・連携して事業を展開した。

(ア) ムーブ学生活動プロジェクト（北九州市立大学地域創生学群 ESD プロモート実習）
(イ) ムーブサポーター事業
(ウ) 人権を考える企業のつどい
(エ) 子育て支援の“いま”を知る！ 2023

オ　ムーブフェスタ 2022

全体のテーマが「創る」、キャッチコピーは「創り出そう　新しい未来　ムーブから」とし、市民の自主的な研究・実践活動を積極的に支援する市民企画事業を中心に、講演会、イベント等の事業を行った。

期間　　令和 4 年 7 月 2 日（土）～令和 4 年 7 月 23 日（土）
参加延人数　34,970 人（うち男性　8,029 人）

(ア) 主催事業（4 事業）
① オープニングイベント　講演会
「浅く広くゆるくつながろう～ Let's まぜこぜ～」
講師：東　ちづる（俳優、一般社団法人 Get in touch 代表）
② イベントステージ
「音楽とダンスで創る世界のステージ
～バリ舞踊・フラダンス・フラメンコの“響演”～」
スペインのフラメンコ、ハワイのフラダンス、インドネシアのバリ舞踊の躍動感に満ちたステージ
③ 行列のできる！？法律相談 Q & A
④ マガジンリサイクル

(イ) 市民企画事業
総事業数　　96 事業
（イベント 57 事業、サマーカーニバル 11 事業、フリーマーケット 28 事業）

カ　相談事業

心の問題や生き方、性別による人権侵害、就労や法律に関する相談等について、相談室相談員をはじめ臨床心理士、キャリアコンサルタント、弁護士がジェンダーの視点に立って相談に応じた。また、離婚に関する男女の法律基礎講座、内閣府の「女性に対する暴力をなくす運動」に連動した特別講座、福岡県弁護士会との共催によるホットライン事業等を実施した。

(ア)　相談

こころと生き方の一般相談・性別による人権侵害相談・女性のための元気アップ相談（就労）・男性のための電話相談・女性のための無料法律相談等

区　　分	電話	面接	メール等	合　　計	
こころと生き方 一般相談	3,547 件	33 件	16 件	3,596 件	4,279 件
ライン相談（3 か月間） 受託・モデル事業	—	—	54 件	54 件	
人権侵害相談	187 件	2 件		189 件	
女性の法律相談	—	157 件		157 件	
女性のための 元気アップ相談	125 件	62 件		187 件	
男性電話相談	96 件	—		96 件	

(イ)　講座（4 講座、参加延人数 111 名）

①　女性のための離婚に関する法律基礎講座

②　男性のための離婚に関する法律基礎講座（講義編・個別相談編）

③　女性への暴力ゼロ運動特別講座

『若年女性の今（リアル）～夜の公園に居場所を求めて～』

④　単発講座

『男性のためのアンガーマネジメント
～イライラ・モヤモヤとのつきあい方と伝え方～』

(ウ)　ホットライン（相談件数 23 件）

福岡県弁護士会、配偶者暴力相談支援センターとの共催で、弁護士等が女性の人権侵害等に関する相談に電話で応じた。

①　女性の権利ホットライン【内閣府「男女共同参画週間」事業】

②　女性への暴力ゼロ！ホットライン【内閣府「女性に対する暴力をなくす運動」事業】

(エ)　その他啓発

①　パネル展示

・デート DV 防止「大切にしよう、自分のこと」

・DV 防止「身体的暴力だけが DV ではありません」

②「女性に対する暴力をなくす運動」街頭啓発キャンペーンの協力（小倉駅前広場）

キ　情報事業

(ア)　情報収集提供事業

男女共同参画社会の実現に向けて、ジェンダー問題に関する図書や資料等の収集・提供を行うとともに、絵本等の読み聞かせ会を開催した。また、市内等で活動している団体の情報を情報システム「ムーブネット」により管理・提供した。さらに、ムーブの施設・講座等の情報をホームページ、Facebook やインスタグラム、ムーブメールにより提供した。

①　図書・資料等の収集

ジェンダー問題関連の図書を中心に、行政資料、雑誌、児童書、DVD 等の収集・提供の充実を図った。

(a)　蔵書数（令和 5 年 3 月 31 日現在）

図書 56,586 冊、雑誌 5,030 冊、DVD115 本

②　図書・資料等の提供（貸出等）

図書の貸出・返却及び利用者並びに資料の登録・検索、図書統計資料の作成等に関する管理を北九州市立図書館とオンライン化した電算システムで行った。また、北九州市立図書館共通図書カードにより貸出を行うとともに、北九州市の各図書館との相互貸借も行った。

(a)　図書情報室利用状況（令和 4 年 4 月～令和 5 年 3 月 31 日）

貸出冊数 33,671 冊、貸出者数 12,636 人

(b)　親子を対象に絵本の読み聞かせをする「おはなし会」の開催　ほか

③　男女共同参画関連情報の収集・提供

(a)　団体情報（ムーブネット）の収集提供

男女共同参画社会の実現のために市内及び近郊で活動している団体の情報を情報システム「ムーブネット」により管理・提供した。

・登録件数　　62 件（令和 5 年 3 月 31 日）

④　その他の情報提供

(a)　ホームページ・Facebook・インスタグラム

ムーブの講座、イベント、図書、貸室などの最新情報を随時更新し、ホームページ等で提供した。

・ホームページ、Facebook、インスタグラムアクセス件数

（令和 4 年 4 月～令和 5 年 3 月 31 日）

ホームページ　208,364 件　Facebook　22,540 件　インスタグラム　6,593 件

(b)　ムーブメール（メールマガジン）

ムーブの講座・イベントなどの最新情報を掲載したメールマガジン「ムーブメール」を月 1 回配信した。

・ムーブメール登録者数　393 人（令和 5 年 3 月 31 日現在）

(イ) 調査研究事業

① ジェンダー問題 調査・研究支援事業

(a) 令和 3/4 年度ジェンダー問題 調査・研究支援事業

ジェンダー問題を自主的に調査研究し、その問題解決を図るための糸口を見出そうと取り組んでいる市民グループ・研究者等を支援するために、その調査費の一部（1 年目 上限 30 万円・2 年目 上限 20 万円）を助成した。令和 4 年度は、基礎調査（インタビュー調査）の分析・研究を行う支援をした。研究テーマに沿って調査・研究を行い、令和 5 年 3 月に調査・研究結果をまとめた報告書を発行した。

・テーマ：「女性管理職のキャリア形成　－一皮むけた経験を探る－」

・研究者：徳永彩子（熊本学園大学商学部　准教授）

所　吉彦（岐阜協立大学経営学部　教授）

② ジェンダーに関する啓発冊子の発行等事業

(a) 冊子『育休・産休取得者だけの問題じゃない！パパの子育て応援 NAVI』発行

主に市内の民間企業で働く 20 ～ 40 代前後の子育て世代に向けて、改正した育児・介護休業法について解説する『産休・育休取得者だけの問題じゃない！パパの子育て応援 NAVI』を発行した。

・発行部数　2,500 部

・体裁等　　A4 判

(b) 『北九州市の男女共同参画統計データ集 2020』のデータの一部をホームページに掲載し、随時更新した。

③ 男女共同参画に関する啓発事業

ムーブが発行した啓発冊子の活用と広報をテーマとした講演会や研修会を実施した。

(a) 男女共同参画啓発事業「未来をひらくあなたに」

令和 3 年度に発行した冊子『未来をひらくあなたに』の発行を機に、若者が主体的にジェンダー問題について学び考える機会を提供するため、市内 4 校の有志高校生を対象に、約 4 カ月間ジェンダー問題についての探究学習を行った。また、探究学習の成果を広く市民に対し発表した。

企画運営協力：北九州市立大学地域共生教育センター

参加高校生：福岡県立北筑高等学校、西南女学院高等学校、明治学園高等学校、国立高等専門学校機構北九州工業高等専門学校の有志 28 名

参加大学生：北九州市立大学の有志 13 名

・キックオフイベント（参加者　32 名）

講　師：下田泰奈（北九州市立大学地域創生学群　特任教員）

淵上洋平（ちとせ労務管理事務所　代表）

石川敬之（北九州市立大学地域共生教育センター　副センター長）

・探究学習

実施回数：北筑高等学校・北九州工業高等専門学校合同の 3 チーム　全 11 回

明治学園高等学校の 2 チーム　全 11 回

西南女学院高等学校の 1 チーム　全 12 回

・成果発表会（参加者　83 名）

講　師：吉村千恵（尚絅大学短期大学部総合生活学科　講師）

田端亮平（北九州市総務局女性の輝く社会推進室　男女共同参画推進課長）

石川敬之（北九州市立大学地域共生教育センター　副センター長）

(b)　大学生・高校生による体験学習等の受入

・奈良県立国際高等学校生徒の学習成果発表および意見交換（オンライン）

時　期：令和 4 年 5 月 27 日（金）14:00 ～ 15:30

参加者：奈良県立国際高等学校第 3 学年　生徒 5 名

内　容：ジェンダー問題に関する学習の成果発表および意見交換

・青山学院大学「地域実習」

日　時：7 月 5 日（火）～ 9 日（土）　5 日間

参加者：青山学院大学コミュニティ人間科学部第 3 学年　学生 7 名

指導者：大島まな（青山学院大学地域実習　担当教官）

内　容：フォーラム・ムーブの取組みとムーブフェスタ市民企画事業参加団体との交流・意見交換等

・北九州市立大学インターンシップ

日　時：9 月 7 日（水）～ 9 日（金）　3 日間

研修生：北九州市立大学　学生 2 名

内　容：フォーラム・ムーブの業務の説明と体験

・福岡県立小倉高等学校体験活動「フィールドリサーチ」

日　時：9 月 22 日（木）9:30 ～ 12:00

参加者：福岡県立小倉高等学校第 1 学年　生徒 27 名

内　容：SDGs とジェンダー平等、フォーラム・ムーブの取組み

・青山学院大学「女性活動支援プログラム」履修学生の研修

日　時：令和 5 年 1 月 16 日（月）10:00 ～ 12:00

参加者：青山学院大学コミュニティ人間科学部第 2 学年　学生 7 名

指導者：本庄 陽子（青山学院大学コミュニティ人間科学部　准教授）

内　容：フォーラム・ムーブの取組みと北九州市男女共同参画センターの施設見学、北九州市を中心とした男女共同参画の現状についての座学

・京都市立西京高等学校「フィールドワーク」

日　時：3 月 6 日（月）13:00 ～ 15:00

参加者：京都市立西京高等学校第 1 学年　生徒 39 名

内　容：ジェンダー平等とフォーラム・ムーブの取組みについて

(c)　ジェンダー問題にかかる出前研修

・北九州市立大学「キャンパス SDGs」でのレクチャー

日　時：令和 4 年 6 月 25 日（土）15:25 ～ 16:10

参加者：北九州市立大学第 1 学年　学生 20 名

内　容：SDGs ゴール 5 についてのレクチャー、グループワーク、発表

・三井住友信託銀行北九州支店職員研修

日　時：11 月 16 日（水）16:30 ～ 17:15

参加者：三井住友信託銀行北九州支店職員　8 名

内　容：地域で働く経験や意義について、意見交換を交えつつ講話

・福岡県立北筑高等学校「総合的な探究の時間」における課題研究の成果発表会

日　時：令和 5 年 3 月 15 日（水）13:15 ～ 15:15

参加者：福岡県立北筑高等学校第 1・2 学年　生徒 515 名

内　容：代表生徒 6 名による「総合的な探究の時間」における課題研究の成果発表、ムーブ職員含む 6 名より講評

(ウ)　広報事業

①　情報誌『ムービング』の発行

(a)　発行日　97 号　令和 4 年　6 月 10 日

98 号　令和 4 年 10 月　1 日

99 号　令和 5 年　2 月 28 日

(b)　発行部数　各号 6,500 部

ク　施設管理業務

市民が安心して安全に利用でき、さらに利用しやすい施設とするため、環境面や新型コロナウイルス感染症対策にも考慮しつつ計画的かつ効率的な設備の充実・改修を行った。

また、視察の受入れなど、他都市等との連絡調整を行った。

(ア)　施設維持管理業務

安全・安心の観点から、施設・設備の定期的な保守点検や計画的な補修等を行うとともに、防災研修（消防訓練、AED 操作研修等）などの職員研修を実施した。

またホールの客席のクリーニングなど、施設利用における環境整備に努めた。

新型コロナウイルス感染症対策としては、受付への飛沫防止シートの設置や 1 階におけるサーモカメラによる来場者への検温、及び各フロアへの消毒薬の設置などを実施した。

(イ)　貸室業務

主催事業で利用しない施設について、市民グループ・企業等に貸出しを行った。（原則有料）

・令和 4 年度貸室利用人数　89,562 人

≪参考：総利用者数　164,219 人（うち主催事業参加延人数　74,657 人）≫

(ウ)　その他

①　視察受入れ

他都市等からの視察を受入れ、事業説明・意見交換や施設見学を行った。

・視察件数 11 件、延人数 152 人

②　講師派遣

各団体からの依頼に応じ、ハラスメント防止や男女共同参画等について講師を派遣し、講演・研修を実施した。

・派遣件数 24 件、延人数 2,292 人

（うち 11 件 1,024 人　ハラスメント出前講座）

２　自主事業

⑴　男女共同参画センター自主事業

ア　男女共同参画講座（英会話）

イ　就業支援講座（医療事務講座、介護事務講座、パソコン講座　等）

ウ　生活技術講座（夏休み親子木工教室）

エ　健康講座（シェイプアップヨガ　等）

令和４年度　北九州市立男女共同参画センター“ムーブ”利用状況

（令和４年４月１日～令和５年３月31日）

区分／室名		開所日数（日）	利用日数（日）	利用率（%）	利用人員（人） 主催事業	（男性内数）	貸室利用	（男性内数）	総利用者数	（男性内数）
ホール		340	124	36.5%	4,459	957	15,114	5,708	19,573	6,665
大セミナールーム		340	232	68.2%	1,123	129	10,728	4,228	11,851	4,357
小セミナールーム		340	225	66.2%	1,215	134	4,867	2,116	6,082	2,250
企画ルーム１		340	226	66.5%	899	256	2,597	1,068	3,496	1,324
企画ルーム２		340	242	71.2%	75	20	1,803	707	1,878	727
料理室		340	98	28.8%	465	341	334	82	799	423
和室（茶室兼備）		340	187	55.0%	34	5	1,918	383	1,952	388
茶室（立礼形式）		340	48	14.1%	0	0	278	72	278	72
ﾌｨｯﾄﾈｽﾙｰﾑ	専用	340	262	77.1%	492	27	526	115	1,018	142
	個人				5,161	969	—	—	5,161	969
	小計				5,653	996	526	115	6,179	1,111
工芸室	専用	340	111	32.6%	244	93	500	84	744	177
	個人				0	0	—	—	0	0
	小計				244	93	500	84	744	177
OA ルーム	専用	340	179	52.6%	1,071	181	0	0	1,071	181
	個人				162	46	—	—	162	46
	小計				1,233	227	0	0	1,233	227
グループ活動室		340	313	92.1%	78	8	5,829	3,586	5,907	3,594
こどもの部屋		340	89	26.2%	290	83	6	1	296	84
交流広場		340	340	100.0%	28,818	6,857	45,062	16,239	73,880	23,096
相談室		—	—	—	4,474	919	—	—	4,474	919
図書・情報室		—	—	—	25,373	10,149	—	—	25,373	10,149
オンライン受講者		—	—	—	224	0	—	—	224	0
合　計		—	—	—	74,657	21,174	89,562	34,389	164,219	55,563

男性利用率　33.8%

（参考）・前年度（令和３年度）……134,274 人　（内男性 49,565 人）　（男性利用率 36.9%）

内訳　主催　64,069 人　（内男性　21,511 人）
　　貸室　70,205 人　（内男性　28,054 人）

開所からの利用者累計（H7年7月～R5年3月）　……　7,363,812 人

講師派遣参加者数・視察受入数

	令和４年度累計（R4 年４月～ R5 年３月） 件数	人数	令和３年度累計（R3 年４月～ R4 年３月） 件数	人数
講師派遣参加者数	24 件	2,292 人	15 件	1,579 人
視察受入数（国内）	1 件	7 人	1 件	6 人
視察受入数（国外）	0 件	0 人	0 件	0 人
合　計	**25 件**	**2,299 人**	**16 件**	**1,585 人**

収益事業等

その他事業Ⅰ：北九州市大手町ビル維持管理事業

【概況】

北九州市大手町ビル（北九州市立男女共同参画センター以外）の施設・設備の保守点検及び修繕による維持管理、並びに光熱水費の管理を行うとともに、北九州市大手町ビルの入居団体との施設の維持管理、防災、環境などに関する連絡、調整を行った。

その他事業Ⅱ：北九州市立男女共同参画センター等の公益目的以外の貸与事業

【概況】

北九州市立男女共同参画センターにおいて、指定管理事業の一環として、公益目的以外に使用する団体等に施設の貸与を行った。

法人事業

法人事業

【概況】

理事会・評議員会の開催や情報システムのセキュリティ対策、職員対象の様々な研修の実施など、公益財団法人として適正な管理運営を行うとともに、フォーラム賛助会員の加入促進を行った。

1　理事会・定時評議員会の開催

理事会を 4 回（うち 2 回はみなし決議）及び定時評議員会を開催し、決算等の承認、理事長及び専務理事の職務執行状況の報告並びに役員の交代等、公益財団法人の運営の根幹となる重要事項の決議等を行った。

第 1 回理事会　　令和 4 年 6 月 2 日開催
第 2 回理事会　　令和 4 年 6 月 27 日みなし決議
第 3 回理事会　　令和 4 年 9 月 28 日みなし決議
第 4 回理事会　　令和 5 年 3 月 2 日開催
定時評議員会　　令和 4 年 6 月 21 日開催

2　情報システムのセキュリティ対策及び職員研修の実施

情報システムの管理について、随時セキュリティ対策を行い、ウイルスやハッキングなどを未然に防止した。また、個人情報保護、接遇マナー、ハラスメント防止、税制改正に伴うインボイス制度等の職員研修を実施するなど、適正な管理運営に努めた。

3　賛助会員加入の促進

多くの方々とのネットワークの拡大や財政基盤の強化を図るため、賛助会員の加入促進に努めました。

【令和 4 年度実績】会費収入　556,500 円

区　分	年額（1 口）	加入人数	加入口数
個　人	3,000 円	63 名	65 口
団　体	20,000 円	17 件	18 口
学　生	1,500 円	1 名	1 口

財務諸表

貸借対照表内訳表

令和５年３月31日現在　　（単位：円）

科　　目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	内部取引消去	合　　計
Ⅰ　資産の部					
１．流動資産					
現金預金	34,464,021	3,146,095	6,882,077		44,492,193
未収金	2,496,504				2,496,504
貯蔵品	2,699,392				2,699,392
仮払金	166,000		575		166,575
流動資産合計	39,825,917	3,146,095	6,882,652		49,854,664
２．固定資産					
⑴基本財産					
定期預金	96,130		96,129		192,259
投資有価証券	164,576,757		164,576,757		329,153,514
基本財産合計	164,672,887		164,672,886		329,345,773
⑵特定資産					
特定資産合計					
⑶その他固定資産					
什器備品	851,712				851,712
電話加入権	245,000		245,000		490,000
その他固定資産合計	1,096,712		245,000		1,341,712
固定資産合計	165,769,599		164,917,886		330,687,485
資　産　合　計	205,595,516	3,146,095	171,800,538	0	380,542,149
Ⅱ　負債の部					
１．流動負債					
未払金	10,293,636	3,146,095	405,768		13,845,499
前受金	431,274				431,274
預り金	316,033				316,033
仮受金	14,154				14,154
流動負債合計	11,055,097	3,146,095	405,768		14,606,960
２．固定負債					
固定負債合計					
負債合計	11,055,097	3,146,095	405,768	0	14,606,960
Ⅲ　正味財産の部					
１．指定正味財産					
市補助金	150,000,000		150,000,000		300,000,000
寄付金	11,583,048		11,583,047		23,166,095
指定正味財産合計	161,583,048		161,583,047		323,166,095
（うち基本財産への充当額）	161,583,048		161,583,047		323,166,095
（うち特定資産への充当額）					
２．一般正味財産	32,957,371		9,811,723		42,769,094
（うち基本財産への充当額）	3,089,839		3,089,839		6,179,678
（うち特定資産への充当額）					
正味財産合計	194,540,419	0	171,394,770	0	365,935,189
負債及び正味財産合計	205,595,516	3,146,095	171,800,538	0	380,542,149

正味財産増減計算書内訳表

令和４年４月１日から令和５年３月31日まで　　（単位：円）

科　　目	公益目的事業会計			収益事業等会計			法人会計	合　計
	日本及びアジア地域の女性の地位向上支援事業	男女共同参画社会の形成支援事業	小　計	北九州市大手町ビル維持管理事業	男女共同参画センター公益目的外貸与事業	小　計		
Ⅰ　一般正味財産増減の部								
１．経常増減の部								
⑴経常収益								
基本財産運用益	1,694,750		1,694,750				1,694,752	3,389,502
受取会費計	278,250		278,250				278,250	556,500
事業収益	69,709		69,709					69,709
指定管理施設自主事業収益		4,567,658	4,567,658					4,567,658
委託料収益	5,546,853		5,546,853					5,546,853
北九州市委託金収益	2,495,000	187,635,202	190,130,202	37,284,066	45,713,877	82,997,943		273,128,145
受取補助金等	27,555,326		27,555,326				11,444,674	39,000,000
雑収益	47,071	247,510	294,581				1,000	295,581
経常収益計	37,686,959	192,450,370	230,137,329	37,284,066	45,713,877	82,997,943	13,418,676	326,553,948
⑵経常費用								
事業費	35,577,406	191,045,472	226,622,878	37,284,066	45,713,877	82,997,943		309,620,821
管理費							13,418,676	13,418,676
経常費用計	35,577,406	191,045,472	226,622,878	37,284,066	45,713,877	82,997,943	13,418,676	323,039,497
当期経常増減額	2,109,553	1,404,898	3,514,451	0	0	0	0	3,514,451
２．経常外増減の部								
⑴経常外収益								
経常外収益計								
⑵経常外費用								
経常外費用計								
当期経営外増減額								
当期一般正味財産増減額	2,109,553	1,404,898	3,514,451	0	0	0	0	3,514,451
一般正味財産期首残高	15,644,553	13,798,367	29,442,920	0	0	0	9,811,723	39,254,643
一般正味財産期末残高	17,754,106	15,203,265	32,957,371	0	0	0	9,811,723	42,769,094
Ⅱ　指定正味財産増減の部								
基本財産運用益	1,694,750		1,694,750				1,694,752	3,389,502
一般正味財産への振替額	1,694,750		1,694,750				1,694,752	3,389,502
当期指定正味財産増減額	0		0				0	0
指定正味財産期首残高	161,583,048		161,583,048				161,583,047	323,166,095
指定正味財産期末残高	161,583,048		161,583,048				161,583,047	323,166,095
Ⅲ　正味財産期末残高	179,337,154	15,203,265	194,540,419	0	0	0	171,394,770	365,935,189

財務諸表に対する注記

令和 5 年 3 月 31 日現在

1．継続事業の前提に関する注記

継続事業を行うにあたって、重要な疑義を抱かせるような事象または状況は存在しない。

2．重要な会計方針

⑴「公益法人会計基準」（平成 20 年 4 月 11 日　平成 26 年 10 月 16 日改正内閣府公益認定等委員会）を採用している。

⑵　有価証券の評価基準および評価方法
　　満期保有目的の債券・・・取得原価

⑶　固定資産の減価償却方法
　　什器備品・・・定率法
　　無形固定資産・・・定額法

⑷　消費税の会計処理
　　消費税の会計処理は税込方式によっている。

3．基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

（単位：円）

科　目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	11,382	180,877	0	192,259
投資有価証券	329,334,391	9,303,514	9,484,391	329,153,514
小　計	329,345,773	9,484,391	9,484,391	329,345,773
合　計	329,345,773	9,484,391	9,484,391	329,345,773

4．基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

（単位：円）

科　目	当期末残高	（うち指定正味財産からの充当額）	（うち一般正味財産からの充当額）	（うち負債に対応する額）
基本財産				
定期預金	192,259	(185,877)	(6,382)	－
投資有価証券	329,153,514	(322,980,218)	(6,173,296)	－
小　計	329,345,773	(323,166,095)	(6,179,678)	－
合　計	329,345,773	(323,166,095)	(6,179,678)	－

5．固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

（単位：円）

科　目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
その他の固定資産			
什器備品	10,166,009	9,314,297	851,712
小　計	10,166,009	9,314,297	851,712
合　計	10,166,009	9,314,297	851,712

６．満期保有目的の債券の内訳並びに取得価額、時価及び評価損益

（単位：円）

科　目	取得価額	時　価	評価損益
投資有価証券			
29 神奈川県 20 年債	200,000,000	211,420,000	11,420,000
新潟県 25 年度第 1 回公債	20,000,000	20,082,480	82,480
155 共同発行地方債	100,000	100,490	490
48 神奈川県 20 年債	90,000,000	81,488,250	▲ 8,511,750
第 179 回利付国債（20 年）	9,750,000	8,939,190	▲ 810,810
第 182 回利付国債（20 年）	9,303,514	9,439,717	136,203
合　計	329,153,514	331,470,127	2,316,613

７．補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

（単位：円）

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
補助金						
市補助金	北九州市	300,000,000	0	0	300,000,000	指定正味財産
受取市補助金	北九州市	0	39,000,000	39,000,000	0	一般正味財産
合　計		300,000,000	39,000,000	39,000,000	300,000,000	

８．指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

（単位：円）

内　容	金　額
経常収益への振替額	
基本財産利息　（29 神奈川県 20 年債）	2,578,000
基本財産利息　（新潟県 25 年度第 1 回公債）	130,000
基本財産利息　（第 61 回利付国債 20 年）	161,109
基本財産利息　（155 共同発行地方債）	220
基本財産利息　（48 神奈川県 20 年債）	476,100
基本財産利息　（第 179 回利付国債 20 年）	43,942
基本財産利息　（大和ネクスト銀行定期預金）	131
基本財産利息　（福岡銀行定期預金）	0
小　計	3,389,502
合　計	3,389,502

９．関連当事者との取引の内容

該当なし

10．重要な後発事象

該当なし

資　　料

公益財団法人アジア女性交流・研究フォーラムの歩み

1989年8月23日	北九州市の「自ら考え自ら行う地域づくり事業（ふるさと創生事業)」として「アジアの女性の研究・研修システム（仮称）アジア女性フォーラム」が101の案の中から選定される。
11月１日	アジア女性フォーラム（仮称）の基本構想について検討し、総合的な提言を得るため、北九州市長の私的諮問機関として、元労働省婦人少年局長高橋久子氏を委員長とする「アジア女性フォーラム基本構想委員会」が設置される。
12月26日	基本構想委員会が、組織の正式名称を「アジア女性交流・研究フォーラム」とすることを提言し、名称が決定する。
1990年１月19日～21日	東京ドームで開催された「ふるさと創生展」において、アジア女性交流・研究フォーラムの目指す事業が、マルチスライドを使って紹介される。
２月11日～３月24日	北九州市の７区に組織されている「女性会議実行委員会」の主催により、アジア女性交流・研究フォーラムの設立気運を盛り上げるため、各区においてシンポジウム・交流会・展示会・講演会等「アジア女性フォーラム各区イベント」が開催される。
３月30日	基本構想委員会が「アジア女性交流・研究フォーラム基本構想」を北九州市長に提言する。
３月31日	'90アジア国際シンポジウム「アジア・女性・未来～共に考え共に歩もう」を開催する。
６月～９月	第１回アジアセミナーを開催する。（～2000年まで毎年開催）
７月５日	アジア女性交流・研究フォーラムのより具体的な活動について検討するため、北九州市長の私的諮問機関として、「アジア女性交流・研究フォーラム懇談会」が設置される。
７月23日	アジア女性交流・研究フォーラム提言をもとに基本構想が策定される。
10月20日	**アジア女性交流・研究フォーラム設立**（理事長　高橋久子）
10月20日	アジア女性交流・研究フォーラムの設立を記念して、伊東すみ子東京高等裁判所判事を講師として、「国際社会における女性の役割」をテーマに講演会を開催する。
10月	共同研究事業「開発が女性と家族に与える影響」が開始される。
1991年３月９日～10日	第１回アジア女性会議―北九州「アジアと女性の今」を開催する。（以後毎年開催）
３月	情報誌『Asian Breeze』創刊
４月	プロジェクト研究事業が開始される。
５月	海外通信員制度始まる。（以後毎年実施）
12月１日～２日	第２回アジア女性会議―北九州「政策決定における女性」を開催する。
1992年3月18日～27日	第１回女性の地位向上のための行政官セミナー（JICAの委託事業）を開催する。（以後毎年開催。2002年からは「ジェンダー主流化政策のための行政官セミナー」、2010年からは「行政官のためのジェンダー主流化政策」に名称変更）
７月24日	1993年10月を目標に財団法人化を図るため、基本財産積み立てのための募金活動を行う募金委員会が理事等の役員を中心に発足し、募金活動を開始する。
11月13日～15日	第３回アジア女性会議―北九州「環境と開発と女性」を開催する。
11月24日	国連婦人開発基金（ユニフェム）の活動を支援するための組織として、ユニフェム日本国内委員会を国際婦人年連絡会および財団法人横浜女性協会とともに設立し、その正会員となる。

1993年３月　『アジア女性シリーズ』第１号が発刊される。（中国）

５月　「国際理解のための教材ビデオ」制作事業を開始する。

９月17日　財団法人アジア女性交流・研究フォーラム設立発起人会を開催する。

９月22日　労働省より、財団法人としての設立を許可される。

10月１日　**財団法人アジア女性交流・研究フォーラム設立**（理事長　高橋久子）

11月19日～21日　第４回アジア女性会議―北九州「地球の未来と人口」を開催する。

1994年２月８日　高橋久子理事長が最高裁判所判事就任のため理事長を辞任する。三隅佳子専務理事が理事長代行となる。

４月　共同研究事業「アジアの働く女性シリーズ」を開始する。

９月１日～８日　第１回海外通信員セミナーを開催する。

11月18日～20日　第５回アジア女性会議―北九州「女性と家族」を開催する。

1995年４月１日　北九州市から北九州市立女性センターの管理運営業務の委託を受ける。

６月15日　事務所を北九州市大手町ビルに移す。

６月22日　第２代理事長に奥田八二氏が就任する。

７月１日～８日　北九州市立女性センターのオープニングイベントを開催する。

９月４日～11日　国連婦人の地位委員会のオブザーバー参加資格を得る。国連第４回世界女性会議にオブザーバー参加する。また、NGO フォーラムにも参加し、ワークショップを開催する。

11月17日～19日　第６回アジア女性会議―北九州「女性と労働」を開催する。

1996年２月16日～３月21日　第１回環境と開発と女性セミナー（JICA の委託事業）を開催する（～2008 年まで毎年開催）

11月15日～17日　第７回アジア女性会議―北九州「女性とメディア」を開催する。

1997年１月　ホームページを開設する。

４月１日　三隅佳子専務理事が理事長代行となる。

９月22日　「客員研究員制度」を設置する。

11月７日～９日　第８回アジア女性会議―北九州「女性と教育」を開催する。

1998年３月24日　第３代理事長に高橋久子氏が就任する。

６月　「国際協力カレッジ」を開催する。

10月10日　財団設立５周年記念事業を実施する。

11月７日～８日　第９回アジア女性会議―北九州「ジェンダーの視点の主流化（メインストリーム）をめざして」を開催する。

12月12日～13日　地球市民教育地域セミナーを開催する。

1999年４月12日	「ジャパン・ソサエティ地方政治・公共政策フェローシップ事業」を実施する。
９月	「フォーラム懇話会」を実施する。
10月17日～31日	「女性起業家支援塾」（北九州市立女性センターの委託事業）を開催する。
11月６日～７日	第10回アジア女性会議―北九州「男女共同参画の世紀を拓く～女性2000年会議とその後～」を開催する。
2000年１月９日～15日	「女性起業家スタディツアー」（アメリカ　サンフランシスコ）を実施する。
６月５日～９日	国連特別総会「女性2000年会議―21世紀に向けての男女平等・開発・平和」にオブザーバーとして参加する。
６月５日～８日	「女性2000年会議」に関連したNGOのシンポジウム「北京＋５グローバルフェミニストシンポジウム（アメリカ　ニューヨーク）」に参加する。またワークショップを開催する。
９月３日	北九州市で開催された「アジア・太平洋環境大臣会議」の関連事業として「アジア・太平洋環境女性会議（第11回アジア女性会議―北九州）」を開催する。
11月	自治大臣表彰「世界に開かれたまちづくり」を受賞する。
12月28日	理事長制から会長制へ移行、その他諸規定についての寄附行為変更が認可される。
2001年２月25日～３月５日	「環境問題を考えるスタディツアー（マレーシア）」を実施する。
４月１日	原ひろ子氏が初代会長に、第４代理事長に三隅佳子氏が、前理事長の高橋久子氏が顧問に、それぞれ就任する。
７月26日～28日	「持続可能な開発に関する世界首脳会議（WSSD）北東アジア準備会合及びマルチステークホルダー会合（中国　北京）」に参加する。
７月～９月	北九州博覧祭2001の関連事業を実施する。 ・JICA研修員による報告「世界から日本へ！日本から未来へ」 ・渥美雅子弁護士男女共同参画型講談「山内さんちのパートナーシップ」
９月12日～16日	第１回北東アジア女性環境会議（韓国　ソウル）に参加する。
10月６日～７日	第12回アジア女性会議―北九州「自分らしく健康に生きる～ジェンダーを超えて」を開催する。
11月24日～12月１日	「持続可能な開発に関する世界首脳会議（WSSD）に向けてのハイレベル地域会合及び持続可能な開発に関するアジア太平洋ラウンドテーブル（カンボジア　プノンペン）」に参加する。
11月28日～12月２日	「アフガニスタン女性と子どもの写真展」とアフガニスタンセミナーPart1を開催する。
2002年１月18日	環境シリーズセミナー「リオ＋10　ヨハネスブルグ・サミットにむけて世界の準備状況」を開催する。
２月９日～17日	北九州市と東京で「円卓会議：持続可能な開発に関する世界首脳会議（ヨハネスブルグ・サミット）に向けて」を開催する。
３月１日～10日	第46回国連女性の地位委員会（CSW）（アメリカ　ニューヨーク）に参加する。
３月22日	アフガニスタンセミナーPart2を開催する。
３月23日～４月５日	「WSSD第３回準備会合（アメリカ　ニューヨーク）」に参加する。
３月25日～30日	「環境問題を考えるスタディツアー（中国、韓国）」を実施する。

4月1日	北九州市立女性センターの名称を北九州市立男女共同参画センターに変更する。
7月	国連経済社会理事会のNGO協議資格を九州で初めて取得する。
7月31日	国際協力事業団（JICA）国際協力功労者表彰を受賞する。
8月23日 ～ 9月5日	「持続可能な開発に関する世界首脳会議」（ヨハネスブルグ・サミット）に参加（フォーラムの主任研究員は日本政府代表の顧問を務めた）し、各国女性NGOとワークショップを開催する。
10月12日 ～14日	日本・中国・韓国・モンゴルからの女性環境活動家が集い、「第2回北東アジア女性環境会議（第13回アジア女性会議―北九州）」を北九州市と東京で開催する。
2003年3月2日 ～16日	第47回国連女性の地位委員会（CSW）（アメリカ　ニューヨーク）に参加する。
3月16日 ～21日	第3回世界水フォーラム（京都、滋賀、大阪）に参加する。
5月	「国際協力カレッジ」から名称を変更した「KFAWカレッジ」を開催する。
5月17日	北九州市女性史の編纂を行うため北九州市女性史編纂実行委員会の設立に参画する。
10月11日	財団設立10周年記念事業を実施した。
12日	第14回アジア女性会議―北九州「女性のエンパワーメントとICT」を開催する。
2004年2月26日 ～ 3月13日	第48回国連女性の地位委員会（CSW）（アメリカ　ニューヨーク）に参加する。
6月29日 ～ 7月4日	「アジア太平洋NGOフォーラム」参加スタディツアー（タイ　バンコク）を実施する。
9月7日 ～10日	国連アジア太平洋経済社会委員会ハイレベル会議（タイ　バンコク）に参加する。
11月6日 ～ 7日	第15回アジア女性会議―北九州「北京+10に向けて　人間の安性保障とジェンダー」を開催する。
2005年2月28日 ～ 3月6日	第49回国連女性の地位委員会（CSW）「北京＋10」閣僚級会合（アメリカ　ニューヨーク）に参加する。
11月5日 ～ 6日	第16回アジア女性会議―北九州「歴史を拓いた女性たち」を開催する。
12月7日	『北九州市女性の100年史　おんなの軌跡　北九州』を発刊する。
2006年1月16日 ～23日	「インドで考える女性や子どもの人権スタディツアー」を実施する。
2月27日 ～ 3月10日	第50回国連女性の地位委員会（CSW）に参加する。
2月19日	「ノーベル平和賞受賞者　ワンガリ・マータイさんと語る　北九州市民・環境フォーラム　世界の環境首都をめざして」を開催（エコライフステージ実行委員会との共催）する。
4月1日	北九州市立男女共同参画センターの指定管理者となる。
9月28日	北九州ESD（持続可能な開発のための教育）協議会（44団体）が設立される。
10月	環境省「国連持続可能な開発のための教育の10年促進事業」の認定を受けた。
10月15日	『新聞にみる北九州市女性の100年史　おんなの軌跡・北九州』を発刊する。

11月11日～12日　北九州市女性史演劇「秋の三色すみれ」を上演する。

11月18日～19日　第17回アジア女性会議―北九州「公正で豊かな未来を創る～持続可能な開発のための教育とは～」を開催する。

12月5日　国連大学から持続可能な開発のための教育を推進するため、北九州市が「地域の拠点(RCE)」に認定される（日本で4番目）。

2007年2月26日～3月9日　第51回国連女性の地位委員会（CSW）に参加する。

3月1日～8日　「アボリジニ女性のエンパワーメントとアートを活かしたまちづくりスタディツアー(オーストラリア)」を実施する。

4月1日　原ひろ子氏が顧問に、三隅佳子氏が第2代会長に、吉崎邦子氏が第5代理事長に、それぞれ就任する。
北九州ESD協議会の事務局となる。

10月12日～16日　持続可能な開発のための教育（ESD）をテーマにスタディーツアー（韓国）を実施する。

11月10日～11日　第18回アジア女性会議―北九州「つながる ひろがる 地球の未来」を開催する。

12月14日　在福岡アメリカ領事館とミャンマー民主化講演会を共催する。

2008年2月22日～3月7日　第52回国連女性の地位委員会（CSW）に参加する。

3月10日～12日　海外拠点づくりの第一歩として姉妹都市の韓国・インチョン広域市を訪問する。

4月　KFAWアジア研究者ネットワーク立ち上げの準備をする。

5月26日　仁川YWCAの一行（11名）が来北する。

6月25日　韓国・忠清南道女性政策開発院（CWPDI）主催の国際会議に参加・日本の現状を発表する。

9月6日　財団設立15周年記念講演会「アジア・太平洋地域の女性の現状」を実施する。

11月15日　CWPDIと日韓国際セミナーを共同で開催する。

11月15日～16日　第19回アジア女性会議―北九州「地球を食べる、地球で食べる―あなたは食を通して何を考えますか？」を開催する。

2009年2月27日～3月6日　第53回国連女性の地位委員会（CSW）に参加し、KFAW主席研究員がサイドイベントで「東アジアにおけるケアネットワークの必要性」のテーマで意見発表を行う。

3月31日　北九州ESD協議会事務局が北九州市環境局に移管される。

4月1日　三隅佳子氏が顧問に就任する。

6月　ジェンダー関連研究者のネットワークのキックオフ（KFAWアジア研究者ネットワーク）。

8月6日　北九州YMCAとロシア・チェリャビンスク国立大学東洋学科学生一行（7名）との交流プログラムを実施する。

8月10日　在福岡アメリカ領事館と共催でサマーセミナー「ミッシェル・オバマ；アメリカを変革するファーストレディ」を開催する。

9月13日　第2回日韓国際セミナー「大地から食卓へ―ジェンダーの視点で食の安全を考える」を開催する。

9月29日　北九州市・大連市友好協定30周年記念チャーター便で、大連市婦女連合会一行がムーブ（KFAW）を訪問する。

10月26日	在日シンガポール大使館と共催で国際セミナー「シンガポールの女性はいま」を実施する。
11月２日	韓国・忠清南道女性政策開発院（CWPDI）と学術交流協定を締結する。
11月28日～29日	第20回アジア女性会議―北九州「現在（いま）、世界の女性たちは―北九州から世界を視（み）る―」を開催する。
2010年２月26日～３月７日	第54回国連女性の地位委員会（CSW）に参加する。
３月１日	第54回国連女性の地位委員会（CSW）パラレルイベントにて、韓国・忠清南道女性政策開発院（CWPDI）と共同セミナー「女性のエンパワーメントに向けた取組みと課題～日本と韓国の経験から」を開催する。
６月１日	韓国・忠清南道女性政策開発院（CWPDI）と共同で、2010 CWPDI開院11周年韓日共同セミナー（第３回日韓共同セミナー）「韓日女性の地域における政治参加の拡大政策」を韓国で開催する。
７月30日	中国・大連市婦女連合会を訪問。今後の交流について協議する。
７月	大連市婦女連合会から「北九州市男女共同参画センター設立15周年」を祝すメッセージが届く。
10月	東アジア学会20周年記念大会にて、賛助会員として表彰される。
11月13日～14日	第21回アジア女性会議―北九州「世界の子育て―子ども・親・社会のカタチ―」を開催する。
2011年１月22日	北九州市立大学と共催で、国際シンポジウム「国際結婚と多文化共生」を開催する。
１月～２月	KFAWデートDV予防教育ファシリテーター養成講座を開催する。（全４回）
２月26日～３月３日	第55回国連女性の地位委員会（CSW）に参加し、サイドイベント「日本において農林漁業に従事する女性たちのエンパワーメント」において、主席研究員がパネリストとして発表する。
４月１日	北九州市立男女共同参画センター・ムーブ、北九州市立東部勤労婦人センター、北九州市立西部勤労婦人センターの指定管理者となる。
８月	市内高校、大学等の約5,000人を対象に、デートDV予防教室講師派遣事業を実施する。（～2012年３月）
８月31日	学術交流協定締結機関　韓国・忠清南道女性政策開発院（CWPDI）を訪問する。
９月１日	韓国・仁川発展研究院を訪問し、交流協力協定を締結する。
11月26日～27日	第22回アジア女性会議―北九州「災害と向き合う―東日本大震災から学ぶ」を開催する。
11月27日	KFAW日韓共同研究報告会（第４回日韓セミナー）「子育て支援ネットワーク―日韓比較」を開催する。
12月	女子学生のためのキャリア形成プログラムの作成に着手する。
2012年２月26日～３月４日	第56回国連女性の地位委員会（CSW）に参加し、パラレルイベント「日本の農村女性のエンパワーメント―経済のグローバル化と東日本大震災の影響下で」を開催し、主席研究員他が報告する。
11月10日	第23回アジア女性会議―北九州「力を合わせよう―女性、女児への暴力をなくすために」を開催する。
12月８日	第23回KFAW研究員報告会を開催する。

2013年２月２日　ワールドリポート（第５回日韓セミナー）「日韓米の多文化共生」を開催する。

３月２日～８日　第57回国連女性の地位委員会（CSW）に参加し、パラレルイベント「アジア女性交流・研究フォーラムのデートDV/DV防止に向けた取り組み」を開催する。

４月１日　**公益財団法人に移行**
第６代理事長に堀内光子氏が就任する。

８月10日　DV防止講演会／デートDV予防教育ファシリテーター・フォローアップ講座を実施する。

９月～10月　女子学生のためのキャリア形成プログラムを市内大学３校で試験的に実施する。

11月９日　財団設立20周年記念事業として、第24回アジア女性会議―北九州「女性の活躍が日本、世界を変える」を開催する。

11月10日　財団設立20周年記念事業として、北九州市・仁川広域市女性団体文化交流会を開催する。

2014年２月２日　第24回KFAW研究員報告会を開催する。

２月23日～３月２日　KFAWスタディツアー「フィリピンで学ぶ国際協力」を実施する。

４月11日　第58回国際女性の地位委員会（CSW）帰国報告会を開催する。

５月～12月　女子学生のためのキャリア形成プログラムを市内大学５校で実施する。

８月10日　DV防止講演会／デートDV予防教育ファシリテーター・フォローアップ講座を実施する。

10月20日～22日　仁川広域市を訪問し、ジェンダー関連組織・施設への訪問や女性団体主催セミナー及び交流会に参加する。

12月３日～５日　ニューヨーク国連本部経済社会局統計部に協力して、国連ジェンダー統計専門家会合を開催する。

12月６日　第25回アジア女性会議―北九州「女性の働き方としての起業」を開催する。

2015年1月22日～25日　海外通信員を招へいして、ワールドリポート「いま、アジアの女性たちは～海外通信員を囲んでアジアを知ろう～」を開催するとともに、市内の小学生と大学生を対象とした国際交流プログラムを実施する。

２月７日　第25回KFAW研究報告会を開催する。

２月23日～３月４日　KFAWスタディツアー「フィリピンで学ぶ国際協力」を実施する。

５月15日　第59回国連女性の地位委員会（CSW）帰国報告会を開催する。

６月～12月　キャリア形成プログラムを市内大学４校及び市内高校１校で実施する。

６月12日　第26回KFAW研究報告会を開催する。

９月５日～12日　KFAWスタディツアー「ベトナムとカンボジアで学ぶ国際協力」を実施する。

９月19日　DV防止講演会／デートDV予防教育ファシリテーター・フォローアップ講座を実施する。

10月～2016年3月　「市内製造業の女性活躍推進に関する調査」を実施する。

10月31日　第26回アジア女性会議―北九州「女性の活躍推進に向けて～アジアと連携して」を開催する。

11月１日　ハノイ女性連盟と北九州市の女性団体との交流会を実施する。

2016年１月23日　ワールドリポート「いま、世界の女性たちは～世界の行政官を囲んで～」を開催する。

２月14日　第27回KFAW研究報告会を開催する。

5月19日　第60回国連女性の地位委員会（CSW60）帰国報告会を開催する。

7月8日　WWAS国際会議フォローアップ会議　北九州タウンミーティング「高齢化する社会と地域における女性の活躍」を開催する。

9月6日～10日　ハノイ女性連盟との共同企画「ハノイスタディツアー2016」を実施する。

9月～11月　高校生向けキャリア形成プログラムを自由ヶ丘高校及び八幡西生涯学習総合センターで実施する。

11月26日　第27回アジア女性会議―北九州「“誰一人取り残さない”世界の実現～SDGs（持続可能な開発目標）の達成のために何ができるか」を開催する。

12月14日～16日　「KFAW仙台スタディツアー2016」を実施する。

2017年2月25日　ワールドリポートセミナー「女性と災害」を開催する。

3月28日　第28回KFAW研究報告会を開催する。

5月15日　「2017年GSWポストカンファレンスin北九州～明日のキャリアを見つけよう！～」を開催する。

6月23日　第61回国連女性の地位委員会帰国報告会（CSW61）を開催する。

7月～9月　高校生向けキャリア形成プログラムを自由ヶ丘高校及び北九州市立ユースステーションで実施する。

11月25日　第28回アジア女性会議―北九州「あなたの老後、だれが看るの？～高齢者の介護をジェンダーと外国人の受け入れの視点で考えます～」を開催する。

2018年1月17日～20日　「KFAW台湾スタディツアー2017」を実施する。

3月25日　第29回KFAW研究報告会を開催する。

6月14日　第62回国連女性の地位委員会（CSW62）帰国報告会を開催する。

8月～9月　高校生向けキャリア形成プログラムを自由ヶ丘高校及び北九州市立ユースステーションで実施する。

10月4日　ワールドリポートセミナー　国連女子差別撤廃委員会　パトリシア・シュルツ委員講演会「女子差別撤廃条約のより深い理解のために」を開催する。

11月17日　第29回アジア女性会議―北九州「オリンピック・パラリンピックとジェンダー」を開催する。

12月11日～16日　「KFAWタイ・スタディツアー2018」を実施する。

2019年3月24日　第30回KFAW研究報告会を開催する。

6月13日　第63回国連女性の地位委員会（CSW63）帰国報告会を開催する。

7月～8月　高校生向けキャリア形成プログラムを自由ヶ丘高校及び北九州市立ユースステーションで実施する。

10月19日　第30回アジア女性会議―北九州「みんなでつくろう、未来～北京女性会議から25年を控えて～」を開催する。

2020年1月18日　国際理解セミナー「アジアで最も男女平等が進む国・フィリピン講演会」を開催する。

2月9日　国際理解セミナー「のびのびcommunication ～国とジェンダーをこえて～」を開催する。

10月 8 日　第 31 回アジア女性会議―北九州「気候変動とジェンダー」を開催する。

11月14日　第 1 回アジアジェンダー研究者ネットワークセミナー「女子差別撤廃条約と SDGs ―ジェンダー格差先進国最下位から脱却するために―」を開催する。

12月 6 日　第 31 回 KFAW 研究報告会を開催する。（3 月開催を予定していた分の延期開催）

2021年 3 月16日　第 32 回 KFAW 研究報告会を開催する。

3 月21日　第 65 回国連女性の地位委員会（CSW65）NGO フォーラム パラレルイベント「Youth talk: climate action and gender（若者による討論:気候変動アクションとジェンダー）」を開催する。

3 月　Twitter、Instagram アカウント開設

6 月16日　第 65 回国連女性の地位委員会（CSW65）報告会を開催する。

8 月 8 日　高校生向けキャリア形成プログラム「高校生向けジェンダー講座」を実施する。

9 月 4 日　国際理解セミナー
「領事館セミナー×女性のエンパワーメント～多文化共生の視点から～」を開催する。

10月2日　第 33 回 KFAW 研究報告会を開催する。

11月5日　第 32 回アジア女性会議―北九州「ICT と女性～情報化時代における女性のエンパワーメント～」を開催する。

2022年 3 月12日　第 34 回 KFAW 研究報告会を開催する。

3 月17日　第 66 回国連女性の地位委員会（CSW66）
NGO フォーラムパラレルイベント「Youth talk: action for climate justice, disaster prevention & gender equality（若者による討論：気候正義、防災、そしてジェンダー平等への行動）」を開催する。

5 月15日　アジアジェンダー研究者ネットワークセミナー「『変容するアジアの家族』出版記念セミナー」を開催する。

6 月10日　第 66 回国連女性の地位委員会（CSW66）報告会を開催する。

7 月 7 日　第 33 回アジア女性会議―北九州プレイベント「モルドバに避難したウクライナの女性と子どもたち」イベントを開催する。

8 月21日　高校生向けキャリア形成プログラム「ジェンダーを考える夏 2022」を開催する。

9 月30日　第 33 回アジア女性会議―北九州「みんなでフェミニストとして世界を旅しよう！～SDGs チャレンジと共に～」を開催する。

11月12日　国際理解セミナー「ジェンダー平等の現状と国連女子差別撤廃委員会」を開催する。

2023年 1 月25日　KFAW ランチタイムトーク（1 回目）を開催する。

2 月18日　第 35 回 KFAW 研究報告会を開催する。

2 月20日　KFAW ランチタイムトーク（2 回目）を開催する。

3 月15日　KFAW ランチタイムトーク（3 回目）を開催する。

刊行物一覧

(1) 出版物

アジア女性研究

アジア女性研究	創刊号	アジアにおける開発と女性	1,000 円（品切れ）
アジア女性研究	第 2 号	環境・開発・女性	1,000 円
アジア女性研究	第 3 号	A　地球の未来と人口問題 B　アジアの女性と人口問題	1,000 円
アジア女性研究	第 4 号	女性と家族	1,000 円
アジア女性研究	第 5 号	女性と労働	1,000 円
アジア女性研究	第 6 号	女性とメディア	1,000 円
アジア女性研究	第 7 号	女性と教育	1,000 円
アジア女性研究	第 8 号	ジェンダーの視点の主流化をめざして	1,000 円
アジア女性研究	第 9 号	男女共同参画の世紀を拓く	1,000 円
アジア女性研究	第 10 号	ジェンダー主流化に向けて	1,000 円（品切れ）
アジア女性研究	第 11 号	ジェンダーと健康	1,000 円（品切れ）
アジア女性研究	第 12 号	持続可能な開発―ジェンダーの視点から	1,000 円（品切れ）
アジア女性研究	第 13 号	ICT とジェンダー	1,000 円
アジア女性研究	第 14 号	人間の安全保障とジェンダー	1,000 円
アジア女性研究	第 15 号	グローバル化とジェンダー	1,000 円
アジア女性研究	第 16 号	ジェンダーと政治（ポリティクス）	1,000 円
アジア女性研究	第 17 号	福祉とジェンダー	1,000 円
アジア女性研究	第 18 号	科学とジェンダー	1,000 円
アジア女性研究	第 19 号		※
アジア女性研究	別冊	アジア女性学の動向	200 円
アジア女性研究	第 20 号		※
アジア女性研究	第 21 号		※
アジア女性研究	第 22 号		※
アジア女性研究	第 23 号		※
アジア女性研究	第 24 号		※
アジア女性研究	第 25 号		※（品切れ）
アジア女性研究	第 26 号		※
アジア女性研究	第 27 号		※
アジア女性研究	第 28 号		※
アジア女性研究	第 29 号		※
アジア女性研究	第 30 号		※
アジア女性研究	第 31 号		※
アジア女性研究	第 32 号		※

※配布、ホームページからダウンロード

KFAW 調査研究報告書

No.2010-1	インド、ケーララ州の女子教育とジェンダー平等―現状と課題―	※
No.2010-2	日本の犯罪報道における女性　全国紙・地方紙の場合	※
No.2010-3	外国籍女性とその子ども達の社会包摂 ―福岡県のフィリピン人およびタイ人女性の　多文化共生―	※
No.2011-1	Women's Empowerment through Collective Actions: The Case of Makthal Federation in Andhra Pradesh, India　［女性のエンパワーメントのための問題解決型アプローチ―インド、アンドラ・プラデシュ州、マクタール女性連盟を事例として―］	※

	Federations as Collective Actions of *Sanghams*: The Case of Makthal in Andhra Pradesh	
No.2012-1	ジェンダー主流化に向けたアクションとアウトカム —JICA 集団研修「ジェンダー主流化」フォローアップ調査をもとに—	※
	Promoting Gender Mainstreaming around the World: Results of a Follow-up Survey on the JICA Training Course on Gender Mainstreaming	※
No.2012-2	農村女性起業家の事業継続を支援するための調査・分析・ネットワーク開発に関する研究	※
No.2012-3	アジア地域における移行経済国から日本への女性の結婚移住 —インドシナ難民家族と滞日中国人家族における移民女性の事例から—	※
No.2013-1	津波被災地の復興における女性の役割 —インドネシアのアチェ州と東北地方の比較を通して—	※
No.2013-2	現代台湾における子育てをめぐる言説の諸相とジェンダー	※
No.2014-1	夫婦間の性別役割分業はなぜ変わらないのか —既婚女性へのインタビュー調査から探る—	※
No.2014-2	グローバリゼーションに対する認識と英語力 —日本人女性と韓国人女性との比較—	※
No.2015-1	地域における女性団体の活動に関する研究 —北九州市の女性団体を中心に—	※
No.2015-2	移住によって潜在能力は発揮できるか？ —ジェンダーの視点で見た滞日ネパール人の特徴—	※
No.2015-3	台湾・マレーシアにおける女性に対する暴力被害者支援の研究	※
No.2016-1	第 1 回 WWAS 国際会議フォローアップ会議　北九州タウンミーティング 「高齢化する社会と地域における女性の活躍」報告書	※
No.2017-1	アジアにおける性的マイノリティの人権と市民社会 —台湾、シンガポール、日本の比較研究を中心に—	※
No.2017-2	日本における外国人ケア労働者の受け入れと育成をめぐる現状と課題： ジェンダーの視点からの分析	※
No.2018-1	テレワークによる「女性活躍」についての研究	※
No.2018-2	日中における幼児教育とジェンダー —「教育家族」の中の父親役割—	※
No.2018-3	持続可能な開発目標（SDGs）におけるジェンダー視点の主流化に関する研究： 日本と諸外国の自発的国家レビューの比較	※
No.2019-1	地方議会の女性議員増加をめざして —日・台統一地方選挙時の比較調査から—	※
No.2019-2	女性視点のキャリア形成促進に向けた研究 —福岡県と鹿児島県におけるインタビュー調査を基礎として—	※
No.2019-3	DV 被害を受けた母親と子どもへの支援に関する実証的研究 —日本とシンガポールの実践を通して	※
No.2020-1	国際家族年前後の家族をめぐる論点の整理 —国際比較のための基礎的研究—	※
No.2020-2	地方自治体におけるパートナーシップ制度の現状と課題	※
No.2021-1	離婚過程の女性が抱える課題と支援 —シングルマザー・プレシングルマザーのインタビュー調査から	※
No.2022-1	COVID-19 による障害女性の日常生活への影響 —バングラデシュを事例として—	※

※配布、ホームページからダウンロード

Journal of Asian Women's Studies

Journal of Asian Women's Studies Vol. 1	Women in Development in Asia	800 円
Journal of Asian Women's Studies Vol. 2	Environment, Development and Women	1,000 円
Journal of Asian Women's Studies Vol. 3	Population and Our Earth's Future Women's Reproductive Rights and Population Problems in Asia	1,000 円

Journal of Asian Women's Studies Vol. 4	Women and Family	1,000 円
Journal of Asian Women's Studies Vol. 5		1,000 円（品切れ）
Journal of Asian Women's Studies Vol. 6 & 7		1,500 円（品切れ）
Journal of Asian Women's Studies Vol. 8		1,000 円
Journal of Asian Women's Studies Vol. 9		1,000 円（品切れ）
Journal of Asian Women's Studies Vol. 10	Women / Gender and Globalization	1,000 円（品切れ）
Journal of Asian Women's Studies Vol. 11	Participation and Good Governance: Environmental Issues from a Gender Perspective	1,000 円（品切れ）
Journal of Asian Women's Studies Vol. 12	Cairo+10: Reviewing Reproductive Health and Rights	1,000 円
Journal of Asian Women's Studies Vol. 13	ICT and Gender	1,000 円
Journal of Asian Women's Studies Vol. 14		1,000 円
Journal of Asian Women's Studies Vol. 15		1,000 円
Journal of Asian Women's Studies Vol. 16		1,000 円
Journal of Asian Women's Studies Vol. 17	Welfare and Gender	1,000 円
Journal of Asian Women's Studies Vol. 18	E-journal	※
Journal of Asian Women's Studies Vol. 19	E-journal	※
Journal of Asian Women's Studies Vol. 20	E-journal	※
Journal of Asian Women's Studies Vol. 21	E-journal	※
Journal of Asian Women's Studies Vol. 22	E-journal	※
Journal of Asian Women's Studies Vol. 23	E-journal	※
Journal of Asian Women's Studies Vol. 24	E-journal	※
Journal of Asian Women's Studies Vol. 25	E-journal	※
Journal of Asian Women's Studies Vol. 26	E-journal	※
Journal of Asian Women's Studies Vol. 27	E-journal	※
Journal of Asian Women's Studies Vol. 28	E-journal	※

※ホームページからダウンロード

環境シリーズ

アジアにおける環境と女性―実践実例集―	500 円
地球温暖化対策の未来	500 円
ノーベル平和賞受賞者ワンガリ・マータイさんと語る 北九州市民・環境フォーラム　世界の環境首都をめざして　記録	300 円
「持続可能な開発のための教育」～(財)アジア女性交流・研究フォーラムの活動記録～	非売品

農業女性シリーズ

アジアの農業女性のエンパワーメント―韓国と中国からの報告―	1,000 円
Empowerment of Female Farmers in Asia―Korea and China―	1,500 円（品切れ）
Empowerment of Female Farmers in Asia―Vietnam and Thailand―	1,500 円

アジアのドメスティック・バイオレンスシリーズ

アジアのドメスティック・バイオレンス（ハードカバー）	2,500 円
アジアのドメスティック・バイオレンス（ペーパーバック）	2,000 円
Domestic Violence in Asia―A Report from Korea and Cambodia―	800 円

アジア家族研究シリーズ

日本と韓国の家族意識の比較研究―福岡・ソウル調査を中心に―	2,000 円
A Comparative Study on the Family Consciousness between Korea and Japan ―Centered on Seoul and Fukuoka―	2,000 円
現代タイの家族意識の研究―バンコク・ソウル・福岡調査の比較と共に―	2,000 円
A Study of Family Consciousness in Contemporary Thailand ―With Comparison among Bangkok, Seoul and Fukuoka―	2,000 円
現代中国における都市家族の意識と生活に関する研究 ―北京調査及びバンコク・ソウル・福岡との比較―	2,000 円
A Study on Life and Consciousness of Contemporary Urban Family in China ―A Research in Beijing with Comparison among Bangkok, Seoul and Fukuoka―	2,000 円（品切れ）
アジアの経済発展と家族及びジェンダー	1,000 円
The Influences of Economic Development upon Women and Families ―Experiences in Seven Asian Countries―	2,000 円
マレーシアの経済開発と家族及びジェンダー―経済危機の前夜まで―	2,000 円
Effects of Socio-Economic Development on Family and Gender Relations Before Economic Crisis in Malaysia―Focusing on Kuala Lumpur―	2,000 円
アジアの経済発展と家族及びジェンダー―改訂版―	1,200 円
変容するアジアの家族　シンガポール、台湾、ネパール、スリランカの現場から	3,080 円

アジアの働く女性シリーズ

パキスタンの働く女性―綿摘み女性労働者と縫製業の女性労働者―	1,000 円
ベトナムの働く女性―ホーチミン市縫製工場の女性移住労働者―	1,000 円
フィリピンミンダナオ北部における経済開発と女性 ―開発における社会・経済ジェンダー分析（SEGA）モデルの検証―	1,000 円

客員研究員研究

マレーシアとシンガポールにおける女性と政治 ―ナショナリズム・国家建設・ジェンダー―	1,000 円
中国における社会福祉政策の展開状況に関する研究	1,000 円
Globalization の新潮流と「環境保全型経済発展の課題」 ―東南アジア諸国における「中間階層」の増大との関連で―	1,000 円（品切れ）
上海市女性高齢者生活状況に関する訪問調査	1,000 円
アウンサンスーチーの思想と行動	1,000 円（品切れ）
アウンサンスーチーの思想と行動（ビルマ語付）	1,500 円（品切れ）
グローバリゼーションの新潮流と環境保全型経済発展の課題 ―東南アジア諸国の事例で―	1,000 円
ミャンマーにおける女性の地位	1,000 円
インドにおける生涯にわたる健康とジェンダー	1,000 円
インドの経済開発と再生可能エネルギー利用―女性の社会的役割の増大する中で―	1,000 円
女性労働者の非正規化に関する日韓比較 ―労働市場と女性政策、職場のジェンダー構造化の分析―	非売品
「法」・「貧困」・「ジェンダー」：法多元主義と正義へのアクセス	非売品
フィリピンとミャンマーにおける、若者および女性を対象とした HIV ／ AIDS 対策に関する調査研究	非売品
「権利をよりどころにするアプローチ」の展開とアジアの女性のエンパワーメント	※
大連市に進出の日本企業における現地採用女性従業員の労働実態と企業の社会的責任	※
表現アートセラピーを応用したリサーチ手法の可能性 ―人身売買被害者の「＜ほんもの＞の語り」―	※
東北アジアにおけるジェンダー予算の動向―日本、韓国、台湾を事例として	※
中央アジア諸国におけるコミュニティ研究―ジェンダーの視点から― （ウズベキスタン、タジキスタン、カザフスタン、キルギスの事例より）	※

自治体の入札・契約におけるポジティブ・アクション評価による男女共同参画推進に関する比較研究	※
東南アジアから東アジアへの国際移動と再生産労働の変容 —韓国・台湾・日本の比較研究—	※
内戦・津波災害下のこどもの健康 —スリランカ、トリンコマレ県の実態調査に見る性差—	※

※ホームページからダウンロード

起業家シリーズ

私の起業体験—きたきゅうしゅう・ふくおかの女性起業家たち—	1,000 円
アジアの女性起業家	1,000 円
Women Entrepreneurs in Selected Asian Countries	1,000 円

アジア女性シリーズ

No. 1「中国の女性」	1,000 円
No. 2「スリランカの女性」	1,000 円
No. 3「インドネシアの女性」	1,000 円
No. 4「韓国の女性」	1,000 円
No. 5「フィリピンの女性」	1,000 円
No. 6「バングラデシュの女性」	1,000 円
No. 7「ベトナムの女性」	1,000 円
No. 8「タイの女性」	1,000 円
No. 9「中国の女性（改訂版）」	1,000 円
No. 10「シンガポールの女性」	1,000 円
No. 11「マレーシアの女性」	1,000 円
No. 12「インドの女性」	1,000 円

海外通信員レポート集

Vol. 1 (1991-1992)	500 円
Vol. 2 (1992-1993)「家族教育と女性」	800 円
Vol. 3 (1993-1994)「教育と女性」	800 円
Vol. 4 (1994-1995)「女性と家族」	800 円
Vol. 5 (1995-1996)「女性と労働」	800 円
Vol. 6 (1996-1997)「女性とエンパワーメント」	800 円
Vol. 7 (1997-1998)「女性とエンパワーメント」	800 円
Vol. 8 (1998-1999)「女性と起業家」	800 円
Vol. 9 (1999-2000)「高齢者と子ども」	800 円
Vol. 10 (2000-2001)「環境と女性」	800 円
Vol. 11 (2001-2002)「健康と女性」	非売品

中間階層の研究シリーズ

現代フィリピンにおける「中間階層」の研究	1,000 円（品切れ）
現代タイにおける「中間階層」の研究	1,000 円（品切れ）
現代インドネシアにおける「中間階層」の研究	1,000 円（品切れ）
現代マレーシアにおける「中間階層」の研究	1,000 円（品切れ）
現代シンガポールにおける「中間階層」の研究	1,000 円（品切れ）
東南アジアにおける「中間階層」の研究	1,000 円（品切れ）

その他

Princess Sunflower	1,500 円
おんなの軌跡北九州―北九州市女性の 100 年史―	3,000 円

⑵ ビデオ

国際理解のための教材ビデオ（解説書つき）ライブラリー価格 10,000 円

	通常価格
中国の子どもたち／スリランカのサボミちゃん	3,000 円（品切れ）
素顔の韓国／ほほ笑みの国・タイ	3,000 円（品切れ）
インドネシアの子どもたち／共に生きるアジアの隣人	3,000 円（品切れ）
陽気なフィリピンの子どもたち／手と手を結ぼう	3,000 円
こんにちはマレーシアの子どもたち／マレーシアってどんな国？	3,000 円
多文化社会の子どもたち／オーストラリアってどんな国？	3,500 円
シンチャオ　こんにちはベトナム／ベトナムの子どもたち ―いちばん大切なものはなに？―	3,500 円

※全て税込価格です。
出版物、ビデオを郵送する場合、送料が別途かかります。

海外とのネットワーク

115 カ国　3 地域　延べ 1,389 人（2023 年 3 月末まで）

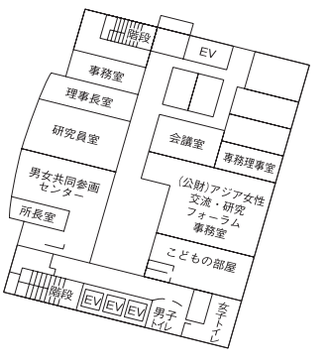
合計	1,400
国（115）	1,349
地域（3）	51

アジア　21 カ国		918
1	インド	60
2	インドネシア共和国	61
3	カンボジア王国	37
4	シンガポール共和国	31
5	スリランカ民主社会主義共和国	42
6	タイ王国	69
7	大韓民国	104
8	中華人民共和国	90
	（うち香港特別行政区）	9
9	ネパール連邦民主共和国	64
10	パキスタン・イスラム共和国	44
11	バングラデシュ人民共和国	48
12	東ティモール民主共和国	3
13	フィリピン共和国	99
14	ブータン王国	51
15	ブルネイ・ダルサラーム国	2
16	ベトナム社会主義共和国	35
17	マレーシア	34
18	ミャンマー連邦共和国	11
19	モルディブ共和国	11
20	モンゴル国	14
21	ラオス人民民主共和国	8
北米　2 カ国		88
1	アメリカ合衆国	84
2	カナダ	4
中南米　17 カ国		56
1	ウルグアイ東方共和国	6
2	エルサルバドル共和国	2
3	コスタリカ共和国	2
4	コロンビア共和国	1
5	ジャマイカ	1
6	スリナム共和国	3
7	セントルシア	1
8	チリ共和国	5
9	ドミニカ共和国	1
10	ニカラグア共和国	1
11	ハイチ共和国	2
12	パナマ共和国	4
13	パラグアイ共和国	1
14	ブラジル連邦共和国	12
15	ペルー共和国	7
16	ホンジュラス共和国	1
17	メキシコ合衆国	6
欧州（NIS 諸国を含む）　24 カ国		65
1	アルバニア共和国	4
2	英国（グレート・ブリテン及び北アイルランド連合王国）	9
3	イタリア共和国	2
4	ウズベキスタン共和国	2
5	オランダ王国	4
6	キプロス共和国	1
7	キルギス共和国	2
8	クロアチア共和国	1
9	コソボ共和国	8
10	スウェーデン王国	1
11	タジキスタン共和国	2
12	チェコ共和国	1
13	デンマーク王国	2
14	ドイツ連邦共和国	2
15	ノルウェー王国	2
16	フィンランド共和国	3
17	ボスニア・ヘルツェゴビナ	5
18	ポルトガル共和国	1
19	マケドニア旧ユーゴスラビア共和国	1
20	モルドバ共和国	5
21	ロシア連邦	2
22	ジョージア	2
23	スイス連邦	2
24	セルビア共和国	1
大洋州　9 カ国		69
1	オーストラリア連邦	18
2	キリバス共和国	1
3	サモア独立国	3
4	ソロモン諸島	4
5	パプアニューギニア独立国	19
6	パラオ共和国	1
7	バヌアツ共和国	2
8	フィジー諸島共和国	20
9	ミクロネシア連邦	1
中東　8 カ国		33
1	アフガニスタン・イスラム共和国	12
2	イエメン共和国	2
3	イスラエル国	1
4	イラク共和国	1
5	イラン・イスラム共和国	3
6	シリア・アラブ共和国	1
7	トルコ共和国	5
8	ヨルダン・ハシェミット王国	8
アフリカ　34 カ国		120
1	アルジェリア民主人民共和国	1
2	ウガンダ共和国	7
3	エジプト・アラブ共和国	6
4	エリトリア国	1
5	ガーナ共和国	15
6	ガボン共和国	1
7	カメルーン共和国	2
8	ケニア共和国	12
9	コートジボワール共和国	4
10	コンゴ共和国	1
11	コンゴ民主共和国（旧ザイール）	2
12	サントメ・プリンシペ民主共和国	1
13	ザンビア共和国	4
14	ジンバブエ共和国	2
15	スワジランド王国	3
16	赤道ギニア共和国	1
17	セネガル共和国	1
18	タンザニア連合共和国	5
19	チャド共和国	2
20	中央アフリカ共和国	1
21	ナイジェリア連邦共和国	11
22	ニジェール共和国	4
23	ブルキナファソ	2
24	ブルンジ共和国	1
25	ベナン共和国	1
26	ボツワナ共和国	1
27	マダガスカル共和国	1
28	マラウイ共和国	17
29	マリ共和国	2
30	南アフリカ共和国	3
31	南スーダン共和国	2
32	モーリシャス共和国	1
33	モーリタニア・イスラム共和国	1
34	レソト王国	1
地域　3 地域		51
1	イギリス領ヴァージン諸島	1
2	台湾	40
3	パレスチナ（PLO）	10

施設案内

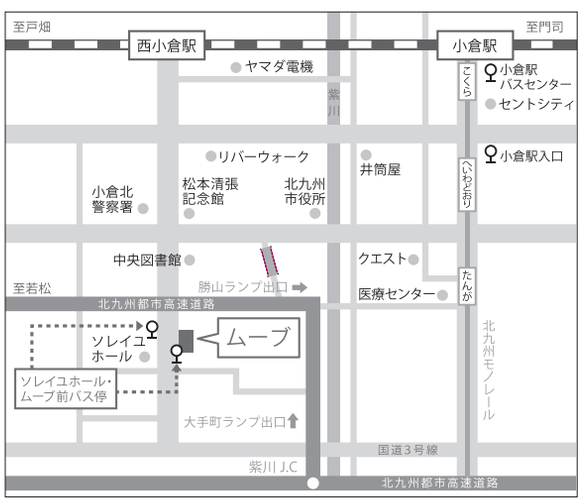
北九州市大手町ビルは地上 10 階、地下 2 階建てで、平成 7 年 7 月に開館しました。
1 階から 5 階までが北九州市立男女共同参画センター・ムーブで、公益財団法人アジア女性交流・研究フォーラムは 3 階に入居しています。

3 階　FLOOR GUIDE



主　な　施　設

9・10F	北九州市立大手町練習場	
8F	北九州市人権推進センター	
6・7F	(公財)アジア成長研究所	
5F		北九州市立男女共同参画センター・ムーブ
4F		北九州市立男女共同参画センター・ムーブ
3F	**(公財)アジア女性交流・研究フォーラム**	北九州市立男女共同参画センター・ムーブ
2F		北九州市立男女共同参画センター・ムーブ
1F		北九州市立男女共同参画センター・ムーブ
B1・2F	地下駐車場（有料・100台収容）	



アクセス

①JR西小倉駅より
1）徒歩約15分
2）西鉄バス
・西小倉駅前　ソレイユホール・ムーブ前下車
36、45、110、138、150、170、197

②JR小倉駅より
1）西鉄バス
・小倉駅バスセンター　ソレイユホール・ムーブ前下車
27、36、45、110、138
・小倉駅入口　ソレイユホール・ムーブ前下車
150、170、197

③北九州都市高速道路　勝山ランプ/大手町ランプより約3分

指定管理施設の案内

北九州市立男女共同参画センター・ムーブ

北九州市立
男女共同参画センター
ムーブ

〒803-0814
北九州市小倉北区大手町11番4号
TEL（093）583-3939　FAX（093）583-5107
E-mail　move@move-kitakyu.jp
ホームページ　https://www.kitakyu-move.jp

（公財）アジア女性交流・研究フォーラム
令和 4（2022）年度 年報

発　　行　（公財）アジア女性交流・研究フォーラム
〒 803-0814　北九州市小倉北区大手町 11-4
TEL（093）583-3434
FAX（093）583-5195
HP　https://www.kfaw.or.jp
発　行　月　令和 5 年 8 月

公益財団法人
アジア女性交流・研究フォーラム
KITAKYUSHU FORUM ON ASIAN WOMEN
〒803-0814 北九州市小倉北区大手町11番4号 北九州市大手町ビル3階
電話　093−583−3434　FAX　093−583−5195
E-mail: kfaw@kfaw.or.jp　ホームページ https://www.kfaw.or.jp